

講義コード	U360100101	科目ナンバリング	036A101
講義名	○基礎演習 I A		
英文科目名	Practical works on the basic French language, I		
担当者名	鈴木 雅生		
単位	4	配当年次	学部 1年
時間割	通年 火曜日 2時限 西1-308.通年 木曜日 2時限 西1-308		

授業概要

週2回、1年間でフランス語の基礎を学ぶ。

到達目標

フランス語読解のための文法を習得し、基本的なフランス語のテキストを読むことができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	文字と発音
第3回	Leçon 1 (1): 名詞の性・数、冠詞、形容詞、提示表現
第4回	Leçon 1 (2): 人称代名詞1、第一群規則動詞、否定文1
第5回	Leçon 2 (1): être, avoir、否定文2
第6回	Leçon 2 (2): 疑問文、指示形容詞、所有形容詞
第7回	Leçon 3 (1): 第二群規則動詞、縮約、aller、venir
第8回	Leçon 3 (2): 近接未来、近接過去、疑問代名詞1、疑問形容詞、疑問副詞
第9回	Leçon 4 (1): 形容詞・名詞の複数形・女性形、形容詞の位置
第10回	Leçon 4 (2): 比較級・最上級、人称代名詞強勢形
第11回	Leçon 5 (1): 複合過去、関係代名詞1
第12回	Leçon 5 (2): 強調構文、受動態、命令法
第13回	Leçon 6 (1): 人称代名詞の目的補語
第14回	Leçon 6 (2): 準助動詞、指示代名詞、所有代名詞
第15回	理解度の確認
第16回	Leçon 7 (1): 代名動詞
第17回	Leçon 7 (2): 中性代名詞
第18回	Leçon 8 (1): 半過去、大過去、時制の一致1
第19回	Leçon 8 (2): 疑問代名詞2、関係代名詞2
第20回	Leçon 9 (1): 単純未来、前未来
第21回	Leçon 9 (2): 非人称構文、不定代名詞・不定形容詞
第22回	Leçon 10 (1): 条件法現在、条件法過去、時制の一致2
第23回	Leçon 10 (2): 知覚動詞、放任動詞、使役動詞
第24回	Leçon 11 (1): 直接話法と間接話法
第25回	Leçon 11 (2): 現在分詞、ジェロンディフ、感嘆文
第26回	Leçon 12 (1): 接続法現在、接続法過去
第27回	Leçon 12 (2): 接続法の用法
第28回	補遺: 単純過去、前過去
第29回	補遺: 接続法半過去、接続法大過去、条件法過去第2形、自由間接話法
第30回	理解度の確認

授業計画コメント

授業計画はあくまで予定であり、授業の進捗によって変更する可能性があることは言うまでもない。

授業方法

文法事項の説明をした後、練習問題をする。また小テストを頻繁に行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業前には指示した個所の問題をやっておくこと。授業後は、その日に学んだ文法事項、単語、表現などを復習し、疑問点があれば次回の授業で質問すること。

成績評価の方法・基準

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)	50 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト	10 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

上記の割合はあくまで目安である。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

テストの答えは返却し、授業内で解説を行う。

教科書

グラメール・フランセーズ, 学習院フランス語教育研究会, 朝日出版社, 2018

フランス語動詞60－活用・用法・索引－, 久保田剛史、高橋信良、井上櫻子, 朝日出版社, 2015, 978-4-255-35252-7

参考文献コメント

辞書、参考書など、教室で指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

予習・復習を欠かさないこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360100102	科目ナンバリング	036A101
講義名	○基礎演習 I B		
英文科目名	Practical works on the basic French language, I		
担当者名	田上 竜也		
単位	4	配当年次	学部 1年
時間割	通年 火曜日 2時限 西1-314.通年 木曜日 2時限 西1-314		

授業概要

週2回、1年間でフランス語の発音と基礎文法を学ぶ。

到達目標

フランス語の基礎文法をひとつおろ学び、辞書を使って簡単なテキストが読解できる力を身に着ける。

授業内容

実施回	内容
第1回	一般的注意。辞書、参考文献などの指示。アルファベ。発音の基礎
第2回	発音の続き。綴り字の読み方
第3回	教科書の内容に即した文法学習。練習問題
第4回	同上
第5回	〃
第6回	〃
第7回	〃
第8回	〃
第9回	〃
第10回	〃
第11回	〃
第12回	〃
第13回	〃
第14回	〃
第15回	前期のまとめ
第16回	教科書の内容に即した文法学習、練習問題
第17回	同上
第18回	〃
第19回	〃
第20回	〃
第21回	以下、フランス語の簡単なテキストを読む
第22回	同上
第23回	〃
第24回	〃
第25回	〃
第26回	〃
第27回	〃
第28回	〃
第29回	〃
第30回	後期のまとめ

授業計画コメント

授業進度は、学習者の理解度にあわせて調節する

授業方法

文法説明を講義形式で行い、宿題や演習は指名して担当してもらう。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に当該箇所を読み、下調べをすること。また必ず復習もすること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	25 %	
学年末試験(第2学期)	25 %	
中間テスト	0 %	
レポート	0 %	
小テスト	25 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	25 %	出席、聴講態度重視
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):25%(聴講態度重視) 第2学期(学年末試験):25%(試験の成績による) 第1学期(学期末試験):25%(試験の成績による) 真摯に学習することはもちろんであるが、さらに聴講態度も重視する。居眠り、私語、飲食(ガム、飴含む)、無断退出、メールなどは減点対象となり、はなはだしい場合には単位取得不可とみなす場合もある。小テスト:25%(動詞活用や単語などについて随時行う)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

第1学期末試験および小テストは返却する。第2学期末試験は返却しないが、成績に疑問があれば質問に答える。

教科書

グラメール・フランセーズ,学習院フランス語教育研究会,朝日出版社,2018,978-4-255-36280-0

フランス語動詞60ー活用・用法・索引ー,久保田剛史、高橋信良、井上櫻子,朝日出版社,2015,978-4-255-35252-7 C1085

教科書コメント

学習院大学文学部フランス語圏文化学科作成の教科書。授業開始前に指定する。

参考文献コメント

辞書など、教室で指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

履修態度も平常点に含む。授業中の飲食(ガム、飴など)、携帯電話、スマートフォン利用、居眠り、私語、途中退出(必要な場合には申告すること)は大きな減点対象となるので注意すること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360100103	科目ナンバリング	036A101
講義名	○基礎演習 I C		
英文科目名	Practical works on the basic French language, I		
担当者名	志々見 剛		
単位	4	配当年次	学部 1年
時間割	通年 火曜日 2時限 西1-210.通年 木曜日 2時限 西1-210		

授業概要

フランス語の基礎を学ぶ。

到達目標

フランス語の基礎文法を習得し、簡単なフランス語のテキストを読めるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	文字と発音
第3回	Leçon 1 (1): 名詞の性・数、冠詞、形容詞、提示表現
第4回	Leçon 1 (2): 人称代名詞1、第一群規則動詞、否定文1
第5回	Leçon 2 (1): être, avoir、否定文2
第6回	Leçon 2 (2): 疑問文、指示形容詞、所有形容詞
第7回	Leçon 3 (1): 第二群規則動詞、縮約、aller、venir
第8回	Leçon 3 (2): 近接未来、近接過去、疑問代名詞1、疑問形容詞、疑問副詞
第9回	Leçon 4 (1): 形容詞・名詞の複数形・女性形、形容詞の位置
第10回	Leçon 4 (2): 比較級・最上級、人称代名詞強勢形
第11回	Leçon 5 (1): 複合過去、関係代名詞1
第12回	Leçon 5 (2): 強調構文、受動態、命令法
第13回	Leçon 6 (1): 人称代名詞の目的補語
第14回	Leçon 6 (2): 準助動詞、指示代名詞、所有代名詞
第15回	理解度の確認
第16回	Leçon 7 (1): 代名動詞
第17回	Leçon 7 (2): 中性代名詞
第18回	Leçon 8 (1): 半過去、大過去、時制の一致1
第19回	Leçon 8 (2): 疑問代名詞2、関係代名詞2
第20回	Leçon 9 (1): 単純未来、前未来
第21回	Leçon 9 (2): 非人称構文、不定代名詞・不定形容詞
第22回	Leçon 10 (1): 条件法現在、条件法過去、時制の一致2
第23回	Leçon 10 (2): 知覚動詞、放任動詞、使役動詞
第24回	Leçon 11 (1): 直接話法と間接話法
第25回	Leçon 11 (2): 現在分詞、ジェロンディフ、感嘆文
第26回	Leçon 12 (1): 接続法現在、接続法過去
第27回	Leçon 12 (2): 接続法の用法
第28回	補遺: 単純過去、前過去
第29回	補遺: 接続法半過去、接続法大過去、条件法過去第2形、自由間接話法
第30回	理解度の確認

授業計画コメント

上記の内容は目安であり、授業の進度に応じて多少、変更することがある。

授業方法

文法事項の説明と練習問題。随時、小テストを行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業前: 指定した練習問題を行うこと。

授業後: 文法事項や単語などを復習すること。

成績評価の方法・基準

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト	20 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

上記の割合はあくまで目安である。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

小テスト、期末テストの答案を返却する。必要に応じて授業内で解説を行う。

教科書

グラメール・フランセーズ,学習院フランス語教育研究会,朝日出版社,2018
フランス語動詞60ー活用・用法・索引ー,久保田剛史、高橋信良、井上櫻子
朝日出版社,2015,978-4-255-35252-7

参考文献コメント

辞書、参考書などは教室で指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

紙の仏和辞書を準備すること。予習・復習を欠かさないこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360101101	科目ナンバリング	036A102
講義名	○基礎演習ⅡA		
副題	フランス語読解とフランス語実践演習		
英文科目名	Practical works on the basic French language, II		
担当者名	中条 省平.中山 慎太郎		
単位	4	配当年次	学部 2年
時間割	通年 火曜日 1時限 西2-305.通年 金曜日 5時限 西2-305		

授業概要

すでにフランス語の初級文法と仏文読解の基礎を習得し終えた学生に(基本的に2年生向け)、より高度な仏文読解のテクニックを教え、同時に獲得した文法知識を確かなものとして活用できるようにする。

到達目標

フランス語の基本構造を理解すると同時に、単語の語彙を基本2000語程度に広げ、フランス語圏における生活と文化の基礎知識を獲得し、平易な文献を辞書を用いつつ自力で読解できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	概要説明:毎週1回は、仏文読解の演習を行い、毎週もう1つの回では、フランス語の実践的演習を行う。
第2回	テキスト読解、フランス語実践演習(1)
第3回	テキスト読解、フランス語実践演習(2)
第4回	テキスト読解、フランス語実践演習(3)
第5回	テキスト読解、フランス語実践演習(4)
第6回	テキスト読解、フランス語実践演習(5)
第7回	テキスト読解、フランス語実践演習(6)
第8回	テキスト読解、フランス語実践演習(7)
第9回	テキスト読解、フランス語実践演習(8)
第10回	テキスト読解、フランス語実践演習(9)
第11回	テキスト読解、フランス語実践演習(10)
第12回	テキスト読解、フランス語実践演習(11)
第13回	テキスト読解、フランス語実践演習(12)
第14回	まとめ
第15回	理解度確認
第16回	テキスト読解、フランス語実践演習(13)
第17回	テキスト読解、フランス語実践演習(14)
第18回	テキスト読解、フランス語実践演習(15)
第19回	テキスト読解、フランス語実践演習(16)
第20回	テキスト読解、フランス語実践演習(17)
第21回	テキスト読解、フランス語実践演習(18)
第22回	テキスト読解、フランス語実践演習(19)
第23回	テキスト読解、フランス語実践演習(20)
第24回	テキスト読解、フランス語実践演習(21)
第25回	テキスト読解、フランス語実践演習(22)
第26回	テキスト読解、フランス語実践演習(23)
第27回	テキスト読解、フランス語実践演習(24)
第28回	テキスト読解、フランス語実践演習(25)
第29回	まとめ
第30回	理解度確認

授業方法

かなり高度な仏文テキスト読解の演習を行い、それと並行しつつ、中級文法(特に条件法、話法、接続法、現在分詞、代名動詞等)の解説とそれらの事項に関する問題を行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に辞書を丹念に引きながら教科書の該当箇所を読んだうえで、練習問題などを行うこと(約1時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト	10 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):10% 第2学期(学年末試験):40% 第1学期(学期末試験):40% 小テスト:10% 学期末試験以外の20%は、出席、小テストの結果、授業参加への積極性を考慮して総合的に採点する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

教室で直接説明する。

教科書コメント

授業時に指示する。

参考文献コメント

必要に応じて授業中に教示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360101102	科目ナンバリング	036A102
講義名	○基礎演習ⅡB		
英文科目名	Practical works on the basic French language, Ⅱ		
担当者名	野村 正人.土橋 友梨子		
単位	4	配当年次	学部 2年
時間割	通年 火曜日 1時限 南1-304.通年 金曜日 5時限 南1-304		

授業概要

すでにフランス語の初級文法と仏文読解の基礎を習得し終えた学生に(基本的に2年生向け)、より高度な仏文読解のテクニックを教え、同時に獲得した文法知識を確かなものとして活用できるようにする。

到達目標

フランス語の基本構造を理解すると同時に、単語の語彙を基本2000語程度に拡げ、フランス語圏における生活と文化の基礎知識を獲得し、平易な文献を辞書を用いつつ自力で読解できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	概要説明:毎週1回は、仏文読解の演習を行い、毎週もう1つの回では、中級文法の演習を行う。
第2回	テキスト読解、文法演習(1)
第3回	テキスト読解、文法演習(2)
第4回	テキスト読解、文法演習(3)
第5回	テキスト読解、文法演習(4)
第6回	テキスト読解、文法演習(5)
第7回	テキスト読解、文法演習(6)
第8回	テキスト読解、文法演習(7)
第9回	テキスト読解、文法演習(8)
第10回	テキスト読解、文法演習(9)
第11回	テキスト読解、文法演習(10)
第12回	テキスト読解、文法演習(11)
第13回	テキスト読解、文法演習(12)
第14回	まとめ
第15回	理解度確認
第16回	テキスト読解、文法演習(13)
第17回	テキスト読解、文法演習(14)
第18回	テキスト読解、文法演習(15)
第19回	テキスト読解、文法演習(16)
第20回	テキスト読解、文法演習(17)
第21回	テキスト読解、文法演習(18)
第22回	テキスト読解、文法演習(19)
第23回	テキスト読解、文法演習(20)
第24回	テキスト読解、文法演習(21)
第25回	テキスト読解、文法演習(22)
第26回	テキスト読解、文法演習(23)
第27回	テキスト読解、文法演習(24)
第28回	テキスト読解、文法演習(25)
第29回	まとめ
第30回	理解度確認

授業方法

比較的やさしい仏文テキスト読解の演習を行い、それと並行しつつ、中級文法(特に条件法、話法、接続法、現在分詞、代名動詞等)の解説とそれらの事項に関する問題を行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に辞書を丹念に引きながら教科書の該当箇所を読んだうえで、練習問題などを行うこと(約1時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト	10 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	小テスト、訳読の出来具合による
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

学期末試験以外の20%は、出席、小テストの結果などを考慮して総合的に採点する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

試験やレポートは実施後に採点、コメントをつけて返却する。

教科書コメント

授業時に指示

参考文献コメント

授業時に指示

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。履修者数制限あり。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360101103	科目ナンバリング	036A102
講義名	○基礎演習ⅡC		
英文科目名	Practical works on the basic French language, Ⅱ		
担当者名	大野 麻奈子.川口 覚子		
単位	4	配当年次	学部 2年
時間割	通年 水曜日 1時限 西2-405.通年 金曜日 5時限 西2-405		

授業概要

初級文法をひとつおわり終えた者を対象とし、中級文法を学びながらより実践的な長文を読むことを目指す授業。
水曜日は長文読解を、金曜日は文法を中心とした授業を行う。

到達目標

フランス語圏の文化についての知識・教養を深めながら、フランス語で書かれた文章を読み解く力をつけること。

授業内容

実施回	内容
第1回	概要説明
第2回	テキスト訳読・文法演習
第3回	〃
第4回	〃
第5回	〃
第6回	〃
第7回	〃
第8回	〃
第9回	〃
第10回	〃
第11回	〃
第12回	〃
第13回	〃
第14回	〃
第15回	まとめ
第16回	テキスト訳読・文法演習
第17回	〃
第18回	〃
第19回	〃
第20回	〃
第21回	〃
第22回	〃
第23回	〃
第24回	〃
第25回	〃
第26回	〃
第27回	〃
第28回	〃
第29回	〃
第30回	まとめ

授業計画コメント

毎回の授業において、なるべく多くの受講者に発言の機会を与える。

授業方法

あらかじめ担当部分を伝えられている受講者、またはアランダムに指名された受講者が問題を解答、または文章を訳す。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

教師に渡された問題集またはテキストを予習すること。辞書(できれば紙媒体のもの)をじっくりと参照すること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト	20 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

通年授業なので、1年を通じて力を伸ばしていく努力は評価に値する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

試験を返却する際には、細かい解説を行う。

教科書コメント

教師の指示に従うこと。

履修上の注意

履修者数制限あり。

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360102101	科目ナンバリング	036A103
講義名	フランス語演習A		
副題	Traduire en français		
英文科目名	Seminar in the French language		
担当者名	DARTOIS-AKO Myriam		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 火曜日 3時限 西2-405		

授業概要

Ce cours, entièrement dispensé en français, sera consacré au thème, c'est-à-dire à la traduction d'un morceau de littérature japonaise, extrait de roman ou récit que j'aurai choisi et distribuerai aux étudiants au début de l'année.

到達目標

Il s'agira donc de mettre en pratique les acquis des années précédentes en produisant une traduction française correcte et, si possible, élégante d'un texte japonais donné.

授業内容

実施回	内容
-----	----

第1回	A chaque séance, une dizaine de lignes de japonais seront données à traduire en français.
第2回	Les étudiants ont jusqu'à présent rarement eu l'occasion de travailler sur des textes suivis et ont souvent tendance à opérer phrase par phrase.
第3回	Ce cours est destiné à leur donner l'habitude d'un effort continu dans l'expression en langue française.
第4回	Il en sera ainsi pour toutes les séances jusqu'à la fin de l'année.
第5回	Etc.
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	
第16回	
第17回	
第18回	
第19回	
第20回	
第21回	
第22回	
第23回	
第24回	
第25回	
第26回	
第27回	
第28回	
第29回	
第30回	

授業計画コメント

A l'occasion de ces travaux, je me livrerai à un certain nombre de mises au point grammaticales, lexicales ou stylistiques destinées à faciliter (peut-être !) le travail des élèves.

授業方法

Une importance particulière sera accordée au respect de l'ordre des groupes de mots, qui n'est autre que l'ordre des idées, identique en français et en japonais malgré les différences superficielles de la grammaire.

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

A chaque cours, les étudiants seront tenus d'apporter une préparation écrite. Il m'arrivera de ramasser certains de ces travaux, que je rendrai dûment corrigés au début de la séance suivante. Par ailleurs certains étudiants seront priés de venir au tableau écrire leur proposition de traduction personnelle, que je commenterai et amenderai, si nécessaire, avant d'indiquer ma propre traduction. Une fois rentrés chez eux, les étudiants devront revoir leurs notes de cours et en vérifier chaque transcription dans un dictionnaire ou un manuel de grammaire, jusqu'à ce qu'ils soient sûrs d'avoir tout compris (ou d'avoir des questions à poser).

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)	60 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):10% 第2学期(学年末試験):60% 第1学期(学期末試験):30%

Ces pourcentages n'ont, bien sûr, aucun sens. Il s'agira de mesurer sur toute l'année le travail et les progrès des étudiants.

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Comme il est évident (au point de n'avoir pas besoin d'être précisé) les examens sont rendus accompagnés de commentaires.

履修上の注意

履修者数制限あり。

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360102102	科目ナンバリング	036A103
講義名	フランス語演習B		
副題	Traduire en français		
英文科目名	Seminar in the French language		
担当者名	DARTOIS-AKO Myriam		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 火曜日 4時限 西2-405		

授業概要

Ce cours, entièrement dispensé en français, sera consacré au thème, c'est-à-dire à la traduction d'un morceau de littérature japonaise, extrait de roman ou récit que j'aurai choisi et distribuerai aux étudiants au début de l'année.

到達目標

Il s'agira donc de mettre en pratique les acquis des années précédentes en produisant une traduction française correcte et, si possible, élégante d'un texte japonais donné.

授業内容

実施回	内容
-----	----

第1回	A chaque séance, une dizaine de lignes de japonais seront données à traduire en français.
第2回	Les étudiants ont jusqu'à présent rarement eu l'occasion de travailler sur des textes suivis et ont souvent tendance à opérer phrase par phrase.
第3回	Ce cours est destiné à leur donner l'habitude d'un effort continu dans l'expression en langue française.
第4回	Il en sera ainsi pour toutes les séances jusqu'à la fin de l'année.
第5回	Etc.
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	
第16回	
第17回	
第18回	
第19回	
第20回	
第21回	
第22回	
第23回	
第24回	
第25回	
第26回	
第27回	
第28回	
第29回	
第30回	

授業計画コメント

A l'occasion de ces travaux, je me livrerai à un certain nombre de mises au point grammaticales, lexicales ou stylistiques destinées à faciliter (peut-être !) le travail des élèves.

授業方法

Une importance particulière sera accordée au respect de l'ordre des groupes de mots, qui n'est autre que l'ordre des idées, identique en français et en japonais malgré les différences superficielles de la grammaire.

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

A chaque cours, les étudiants seront tenus d'apporter une préparation écrite. Il m'arrivera de ramasser certains de ces travaux, que je rendrai dûment corrigés au début de la séance suivante. Par ailleurs certains étudiants seront priés de venir au tableau écrire leur proposition de traduction personnelle, que je commenterai et amenderai, si nécessaire, avant d'indiquer ma propre traduction. Une fois rentrés chez eux, les étudiants devront revoir leurs notes de cours et en vérifier chaque transcription dans un dictionnaire ou un manuel de grammaire, jusqu'à ce qu'ils soient sûrs d'avoir tout compris (ou d'avoir des questions à poser).

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)	60 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):10% 第2学期(学年末試験):60% 第1学期(学期末試験):30%

Ces pourcentages n'ont, bien sûr, aucun sens. Il s'agira de mesurer sur toute l'année le travail et les progrès des étudiants.

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Comme il est évident (au point de n'avoir pas besoin d'être précisé) les examens sont rendus accompagnés de commentaires.

履修上の注意

履修者数制限あり。

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360103101	科目ナンバリング	036A800
講義名	ゼミナールA		
副題	サン＝テグジュペリ研究		
英文科目名	Seminar		
担当者名	鈴木 雅生		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 金曜日 4時限 北1-406		

授業概要

童話風の『星の王子さま』とはだいぶ趣の異なる、サン＝テグジュペリの飛行士としての経験から書かれた『人間の大地Terre des Hommes』を扱う。特に、砂漠での経験を描いた箇所を中心に読む予定。

到達目標

フランス語の高度なテキストを読み、その内容を文化的歴史的背景を含めて理解するとともに、自らの言葉で解釈・分析できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	サン＝テグジュペリおよび『人間の大地』についての解説
第3回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(1)
第4回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(2)
第5回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(3)
第6回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(4)
第7回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(5)
第8回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(6)
第9回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(7)
第10回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(8)
第11回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(9)
第12回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(10)
第13回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(11)
第14回	まとめ
第15回	自主研究
第16回	後期ガイダンス
第17回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(12)
第18回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(13)
第19回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(14)
第20回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(15)
第21回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(16)
第22回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(17)
第23回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(18)
第24回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(19)
第25回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(20)
第26回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(21)
第27回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(22)
第28回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(23)
第29回	まとめ
第30回	自主研究

授業計画コメント

詳しい授業計画は初回授業時に配布する。

授業方法

演習形式の授業であるので、大筋を説明した後は、各自にテキストを分担してもらいながら授業を進める。単なる訳読ではなく、担当した箇所の分析やコメントを求めることになる。担当者の発表を出発点に、全体でディスカッションを行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

自分の担当範囲はもちろん、各回で進むテキストの部分を下調べすること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	夏期レポートおよび学年末レポート
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

上記の割合はあくまで目安である。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出されたレポートについては、コメントを付与のうえ返却する。

教科書

Terre des hommes : folio, Saint-Exupery, Gallimard, 2019, 9782070360215

履修上の注意

履修者数制限あり。

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360103102	科目ナンバリング	036A800
講義名	ゼミナールB		
副題	文学と建築		
英文科目名	Seminar		
担当者名	田上 竜也		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 月曜日 3時限 中央-507		

授業概要

文学や諸芸術と建築とのかかわりを、さまざまなテキストを題材に考察します。

到達目標

作家、作品について理解を深めるとともに、文学や建築についての教養を深めます。

授業内容

実施回	内容
第1回	概要説明
第2回	テキスト訳読
第3回	〃
第4回	〃
第5回	テキスト訳読、学生発表
第6回	〃
第7回	〃
第8回	〃
第9回	〃
第10回	〃
第11回	〃
第12回	〃
第13回	〃
第14回	〃
第15回	まとめ
第16回	テキスト訳読、レポートの書き方指導
第17回	テキスト訳読、学生発表
第18回	〃
第19回	〃
第20回	〃
第21回	〃
第22回	〃
第23回	〃
第24回	〃
第25回	〃
第26回	〃
第27回	テキスト訳読
第28回	〃
第29回	〃
第30回	まとめ

授業計画コメント

テキストは随時コピー配布します。初回の授業で、学生のみなさんと相談のうえ、いくつかの候補から決定します。

授業方法

基本的にはテキストに沿って、学生に訳読してもらいます。テキストの正確な読解を基本とし、さらに内容への理解を深めるため、随時関連文献も参照します。また、建築と文学、諸芸術のかかわりについて、順番に各回20分程度の発表をしてもらう予定です。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

特に担当箇所は十分準備すること(約2、3時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	0 %	
学年末試験(第2学期)	0 %	
中間テスト	0 %	
レポート	50 %	プレゼンテーションおよび配布資料作成
小テスト	0 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)	0 %	

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):50%(出席、訳読、聴講態度) 聴講態度重視。居眠り、私語、飲食(ガム含む)、無断退出、メールなどは減点対象となります。レポート:50%(授業内発表のレジュメ)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

発表についてその都度コメントにより評価する。

教科書コメント

コピー配布。

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360103103	科目ナンバリング	036A800
講義名	ゼミナールC		
副題	フランス映画史研究		
英文科目名	Seminar		
担当者名	中条 省平		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 月曜日 2時限 西1-103		

授業概要

トーカー以降の映画史の名せりふを集めた『映画の最も名高い台詞の歴史』(ヴィダル&グラセール共編)を題材にして、エスプリにみちたフランス語を読み解く方法を学び、同時に、映画の歴史および20世紀フランスの社会状況や思想について研究する。

到達目標

映画の語方を理解し、フランス映画史の概略およびフランス文化史の基礎を把握し、批評および口語に用いられるフランス語の読み方を上達させられるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	映画作家の紹介および作品の内容概説
第2回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(1)
第3回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(2)
第4回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(3)
第5回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(4)
第6回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(5)
第7回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(6)
第8回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(7)
第9回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(8)
第10回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(9)
第11回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(10)
第12回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(11)
第13回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(12)
第14回	まとめ
第15回	到達度確認
第16回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(13)
第17回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(14)
第18回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(15)
第19回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(16)
第20回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(17)
第21回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(18)
第22回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(19)
第23回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(20)
第24回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(21)
第25回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(22)
第26回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(23)
第27回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(24)
第28回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(25)
第29回	まとめ
第30回	到達度確認

授業方法

フランス語読解の訓練をあらゆる面から実践することが授業の根幹となるが、さまざまなテーマに基づく発言を随時義務づけ、成績判断の重要な根拠とする。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

徹底的に辞書を引きながら、また、未知の事項を百科事典、映画事典など適切な事典類を用いて調べながら、原書テキストの5ページほどを読んでおくこと(1時間半)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	70 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):30% 第2学期(学年末試験):70%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

教室で直接説明する。

教科書コメント

詳細は第1回目の授業で指示する。

参考文献コメント

Vidal&Glasser :Histoire des plus celebres repliques du cinema(Ramsay)

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360103104	科目ナンバリング	036A800
講義名	ゼミナールD		
副題	アラン・レネ研究		
英文科目名	Seminar		
担当者名	野村 正人		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 金曜日 3時限 西2-306		

授業概要

現代フランスにおけるもっとも重要な映画作家のひとり、アラン・レネ(1922-2014)の映画を研究する。授業では、彼の作品にまつわる文章を読みながら、前期と後期の作品を交代に考察する。

到達目標

大戦後のフランス映画の概要を把握すると同時に、アラン・レネの映画の持つ独自性を理解する。

授業内容

実施回	内容
第1回	戦後のフランス映画(1)
第2回	戦後のフランス映画(2)
第3回	アラン・レネの映画概観(1)
第4回	アラン・レネの映画概観(2)
第5回	「ヒロシマ・モナムール」(1)分析と討議
第6回	「ヒロシマ・モナムール」(2)分析と討議
第7回	「ヒロシマ・モナムール」(3)分析と討議
第8回	「ヒロシマ・モナムール」(4)分析と討議
第9回	「恋するシャンソン」(1)分析と討議
第10回	「恋するシャンソン」(2)分析と討議
第11回	「恋するシャンソン」(3)分析と討議
第12回	「恋するシャンソン」(4)分析と討議
第13回	前期のまとめ(1)
第14回	前期のまとめ(2)
第15回	達成度確認
第16回	「ミュリエル」(1)分析と討議
第17回	「ミュリエル」(2)分析と討議
第18回	「ミュリエル」(3)分析と討議
第19回	「ミュリエル」(4)分析と討議
第20回	「巴里の恋愛狂騒曲」(1)分析と討議
第21回	「巴里の恋愛狂騒曲」(2)分析と討議
第22回	「巴里の恋愛狂騒曲」(3)分析と討議
第23回	「巴里の恋愛狂騒曲」(4)分析と討議
第24回	「風にそよぐ草」(1)分析と討議
第25回	「風にそよぐ草」(2)分析と討議
第26回	「風にそよぐ草」(3)分析と討議
第27回	「風にそよぐ草」(4)分析と討議
第28回	後期のまとめ(1)
第29回	後期のまとめ(2)
第30回	達成度確認

授業方法

各々の映画に関する文献を読みながら授業を進める。授業外で見てきた作品について討論する。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

自分の担当範囲はもちろん、各回で進むテキストの部分を下調べすること(1時間)
扱う映画作品を見ておく。

成績評価の方法・基準

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

試験の答案、レポートは採点し、コメントをつけて返却する。

教科書コメント

授業はじめに指示

参考文献コメント

授業時に指示。

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360103105	科目ナンバリング	036A800
講義名	ゼミナールE		
英文科目名	Seminar		
担当者名	堀内 ゆかり		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 月曜日 3時限 西2-304		

授業概要

フランス語の文章をよく読み、意味を正確に理解したうえで、もとの文章の雰囲気を保つ日本語にするトレーニングをします。原文のリズムを感じるためには音読、原文を正確に読むにはフランス語力も不可欠です。自分の興味に応じたテーマに関する発表も予定しています。

到達目標

「自分で考える」とは？ 翻訳や発表を通じて「自分で考える」ことを体得する。

授業内容

実施回

内容

第1回	Introduction (1) ゼミの進め方について、フランス語力測定
第2回	Introduction(2)
第3回	音読、学生による翻訳の発表、学生相互によるコメント
第4回	〃
第5回	〃
第6回	〃
第7回	〃
第8回	〃
第9回	〃
第10回	〃
第11回	〃
第12回	〃
第13回	〃
第14回	まとめ
第15回	振り返り
第16回	音読、学生による翻訳の発表、学生相互によるコメント フランス語力測定
第17回	学生による発表、学生相互によるコメント
第18回	音読、学生による翻訳の発表、学生相互によるコメント
第19回	学生による発表、学生相互によるコメント
第20回	音読、学生による翻訳の発表、学生相互によるコメント
第21回	学生による発表、学生相互によるコメント
第22回	音読、学生による翻訳の発表、学生相互によるコメント
第23回	学生による発表、学生相互によるコメント
第24回	音読、学生による翻訳の発表、学生相互によるコメント
第25回	学生による発表、学生相互によるコメント
第26回	音読、学生による翻訳の発表、学生相互によるコメント
第27回	学生による発表、学生相互によるコメント
第28回	音読、学生による翻訳の発表、学生相互によるコメント
第29回	まとめ
第30回	振り返り

授業方法

演習形式

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

翻訳発表の準備(1時間以上)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	20 %	
学年末試験(第2学期)	20 %	
中間テスト		
レポート	20 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	参加度で評価します
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

原則として返却します

教科書

Histoire de Babar, Jean de Brunhoff, Hachette

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360103106	科目ナンバリング	036A800
講義名	ゼミナールF		
副題	作家たちの占領下 II		
英文科目名	Seminar		
担当者名	水野 雅司		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 金曜日 4時限 西2-406		

授業概要

昨年度に引き続き、モディアノ(Patrick Modiano)の自伝的作品〈i>Un Pedigree</i>を出発点に、占領下のフランスをテーマとした作品や当時の状況に関する証言等を取り上げ、当時の作家・芸術家・知識人たちが歴史的現実とどのように向き合っていたのか、あるいは後の世代がどのように向き合おうとしているのかを考察すると同時に、文学・芸術における〈歴史と記憶〉という問題にも目を向けた。

到達目標

第二次世界大戦下のフランスに関する作品や文献に接することで、歴史的現実とそれに対する人間の表現活動のさまざまなあり方について理解を深め、自分なりの考えを持てるようになること、またそれを自分の言葉でまとめることができるようになることを目標とする。

授業内容

実施回	内容
第1回	Introduction I：第一学期の授業の進め方について等
第2回	テキスト訳読と解説
第3回	〃
第4回	〃
第5回	〃
第6回	〃
第7回	〃
第8回	〃
第9回	〃
第10回	〃
第11回	〃
第12回	〃
第13回	〃
第14回	まとめ
第15回	自主研究
第16回	Introduction II：学期末試験の返却と解説、第二学期の授業の進め方、研究発表の準備について等
第17回	テキスト訳読と解説
第18回	〃
第19回	〃
第20回	〃
第21回	〃
第22回	研究発表と討議
第23回	〃
第24回	〃
第25回	〃
第26回	〃
第27回	〃
第28回	〃
第29回	まとめ
第30回	自主研究

授業計画コメント

占領下の生活や風俗を知るために、随時、映像や音声資料なども活用します。また研究発表の時期については、進度その他の都合上、前後する場合があります。

授業方法

授業方法

第1学期と第2学期の前半はフランス語テキストの訳読とそれに対するコメント、第2学期後半は主に学生による研究発表とそれに基づく全員での討議が中心になります。各自の問題意識を明確にするために、第1学期の終わりまでに研究発表のテーマを決め、計画書を作成し提出してもらいます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前にテキストの該当箇所を読み、疑問点を明確にしておくこと。研究発表のテーマが決定したら、授業と並行して、自主的に関連文献などを読み、各自で準備しておく必要があります。指示された参考文献にも目を通しておくこと。(約1~2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	20 %	レポート等に代える場合もある。
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	学年末レポート。
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	研究発表。討議への参加度など。
その他(備考欄を参照)	10 %	課題提出など。

成績評価コメント

上記はあくまでも目安です。学期末試験、第2学期の研究発表、学年末レポート、課題の成果および授業への参加度等を総合的に判断して評価します。また学期末試験に代えてレポート等の提出物を課す場合があります。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

学期末試験、確認テスト、提出課題等は、採点后に授業内で返却・解説します。

教科書

Un Pedigree, Patrick Modiano, Gallimard, Folio, 2006

参考文献

ナチ占領下のフランス - 沈黙・抵抗・協力 - : 講談社選書メチエ, 渡辺和行, 講談社, 1994

ホロコーストのフランス, 渡辺和行, 人文書院, 1998

占領下パリの思想家たち - 収容所と亡命の時代 : 平凡社新書, 桜井哲夫, 平凡社, 2007

参考文献コメント

その他、随時授業内で指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360103107	科目ナンバリング	036A800
講義名	ゼミナールG		
英文科目名	Seminar		
担当者名	大野 麻奈子		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 木曜日 2時限 西2-406		

授業概要

Jean-Luc Lagarce (1957-1995)の遺作であるLe Pays lointainを様々な角度から読む。同作家の他の作品、同時代の文学作品・戯曲作品・映画など、また、作家が影響を受けた作品なども視野に入れながら一つの作品を読み解いていく。

到達目標

現代フランス演劇の理解。一つの作品を精読しながら、文学・演劇研究の基礎的な研究方法を身につけること。

授業内容

実施回	内容
第1回	ゼミについての説明。年間計画の紹介など。
第2回	Jean-Luc Lagarce解説。
第3回	作品読解その1
第4回	作品読解その2
第5回	作品読解その3
第6回	作品読解その4
第7回	作品読解その5
第8回	作品読解その6
第9回	作品読解その7
第10回	作品読解その8
第11回	作品読解その9
第12回	作品読解その10
第13回	作品読解その11
第14回	関連作品鑑賞
第15回	まとめ
第16回	作品読解その12
第17回	作品読解その13
第18回	作品読解その14
第19回	作品読解その15
第20回	作品読解その16、受講者発表
第21回	作品読解その17、受講者発表
第22回	作品読解その18、受講者発表
第23回	作品読解その19、受講者発表
第24回	作品読解その20、受講者発表
第25回	作品読解その21、受講者発表
第26回	作品読解その22、受講者発表
第27回	作品読解その23
第28回	作品読解その24
第29回	関連作品鑑賞
第30回	総まとめ

授業計画コメント

授業内容や順序については受講者の様子、実際の読解の進捗などにより随時修正、変更を加えていく。発表は、内容の充実を図るため、パワーポイントは原則的に禁止。

授業方法

演習方式。受講者の積極的な参加を望む。後期(場合によっては前期)にはそれぞれの受講者に発表をしてもらう。関連の映像作品などを鑑賞する際には、気づいたこと、感想などを口頭発表してもらう。それぞれの受講者の発表に対しても積極的なフィードバックが望まれる。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

配布されたプリントはあらかじめ予習しておくこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

授業内での積極的な参加および、質の高いレポート。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートにはコメントを付けて返却する。

教科書コメント

教師作成のプリント。

履修上の注意

履修者数制限あり。

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360103108	科目ナンバリング	036A800
講義名	ゼミナールH		
副題	ラ・フォンテーヌ『寓話』研究		
英文科目名	Seminar		
担当者名	志々見 剛		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 木曜日 4時限 北1-402		

授業概要

ラ・フォンテーヌ『寓話』の抜粋を読む。

到達目標

辞書などを活用して、フランス語の文章を読み解くことができる。作品の歴史的・文化的な背景を踏まえた上で、内容を理解し、それについて自分の言葉で表現できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	作家・作品の紹介ならびに概要の説明
第2回	同上
第3回	訳読・発表
第4回	同上
第5回	〃
第6回	〃
第7回	〃
第8回	〃
第9回	〃
第10回	〃
第11回	〃
第12回	〃
第13回	〃
第14回	授業のまとめ
第15回	自主研究
第16回	先学期に行ったことの確認と、新学期の概要の説明
第17回	訳読・発表
第18回	同上
第19回	〃
第20回	〃
第21回	〃
第22回	〃
第23回	〃
第24回	〃
第25回	〃
第26回	〃
第27回	〃
第28回	〃
第29回	授業のまとめ
第30回	自主研究

授業方法

はじめの数回は、作家・作品およびその背景についての説明を行う。参考文献ならびに必要な辞書類についてもその時に指示する。それ以降は、事前に担当を決めた上で、訳読・発表をしてもらう。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に該当箇所を読むこと。語彙、文法、その他の背景知識についても調べ、疑問点を明確にすること。(約一時間)その他、指示さ

れた参考資料に目を通しておくこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

上記の割合は、あくまで目安である。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートや発表に対して、適宜、コメントや講評を行う。

教科書

Fables choisies, Jean de La Fontaine, Gallimard, 9782070409143

教科書コメント

授業内で指示します。

参考文献コメント

参考文献は授業内で指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

発表の無断欠席と、レポート等での不正には厳正に対処します。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360106101	科目ナンバリング	036A902
講義名	卒業演習A		
英文科目名	Graduation Seminar		
担当者名	田上 竜也		
単位	0	配当年次	学部 4年
時間割	通年 月曜日 5時限 西1-204		

授業概要

フランスロマン主義文学を代表する作家のひとりネルヴァルの傑作短編集『火の娘たち』から、「アンジェリック」という作品を読みます。

到達目標

作品の正確な読解につとめるとともに、時代背景についても理解を深めます。

授業内容

実施回	内容
第1回	概要説明
第2回	テキスト訳読
第3回	〃
第4回	〃
第5回	〃
第6回	〃
第7回	〃
第8回	〃
第9回	〃
第10回	〃
第11回	〃
第12回	〃
第13回	〃
第14回	〃
第15回	まとめ
第16回	いままでの内容確認
第17回	テキスト訳読
第18回	〃
第19回	〃
第20回	〃
第21回	〃
第22回	〃
第23回	〃
第24回	〃
第25回	〃
第26回	〃
第27回	〃
第28回	〃
第29回	〃
第30回	まとめ

授業方法

基本的には学生のみなさんにテキストの分担した部分を訳読してもらい形で進め、随時作者や作品についての解説を加えます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

各自毎回数ページを読んでくること。とくに指定された箇所は正確な訳を心がけること。

成績評価の方法・基準

評価項目

評価配分(%) 備考

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	20 %	
学年末試験(第2学期)	20 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):60%(出席、聴講態度重視) 聴講態度重視。居眠り、私語、飲食(ガム、飴も含む)、無断退出(必要な場合には必ず申告すること)、メールなどは大きな減点対象となります。第2学期(学年末試験):20%(授業内容の確認) 第1学期(学期末試験):20%(授業内容の確認)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

前期試験は返却する。後期試験は返却しないが質問には応じる。

教科書

LES FILLES DU FEU:FOLLIO CLASSIQUE,GERAR DE NERVAL,GALLIMARD,2005,978-2-07-031479-9

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360106102	科目ナンバリング	036A902
講義名	卒業演習B		
副題	フランス暗黒小説読解		
英文科目名	Graduation Seminar		
担当者名	中条 省平		
単位	0	配当年次	学部 4年
時間割	通年 木曜日 1時限 西2-404		

授業概要

フランスの暗黒小説(探偵小説)の短篇を集めた『犯罪真髓』(ルブラン&メスプレード共編)を題材にして、小説読解の方法を学び、同時に、19~20世紀フランスの政治・社会状況および文学をめぐる思想について研究する。

到達目標

近代の探偵小説(ミステリー)の歴史と手法の概略を理解し、そのフランスにおける独自の展開と特性を把握し、フランスで一般的に人気のあるミステリーを原文で読めるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	序説:フランス暗黒小説の歴史
第2回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(1)
第3回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(2)
第4回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(3)
第5回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(4)
第6回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(5)
第7回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(6)
第8回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(7)
第9回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(8)
第10回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(9)
第11回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(10)
第12回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(11)
第13回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(12)
第14回	まとめ
第15回	到達度確認
第16回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(13)
第17回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(14)
第18回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(15)
第19回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(16)
第20回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(17)
第21回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(18)
第22回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(19)
第23回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(20)
第24回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(21)
第25回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(22)
第26回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(23)
第27回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(24)
第28回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(25)
第29回	まとめ
第30回	到達度確認

授業方法

フランス語読解の訓練をあらゆる面から実践することが授業の根幹となるが、さまざまなテーマに基づく発言を随時義務づけ、成績判断の重要な根拠とする。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

徹底的に辞書を引きながら原書の5ページほどを読んでおくこと(約1時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	70 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):30% 第2学期(学年末試験):70%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

教室で直接説明する。

教科書コメント

第1回目の授業時に指示する。

参考文献コメント

M. Lebrun & C. Mesplede : La Creme du crime (l'Atalante)

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360106103	科目ナンバリング	036A902
講義名	卒業演習C		
副題	ウジェーヌ・ラビッシュ研究		
英文科目名	Graduation Seminar		
担当者名	野村 正人		
単位	0	配当年次	学部 4年
時間割	通年 火曜日 2時限 北1-404		

授業概要

19世紀フランスでもっとも有名だった喜劇作家ウジェーヌ・ラビッシュの代表作 Voyage de Monsieur Perrichon (1860年)を読んで、喜劇に親しむと同時に、19世紀のブルジョワとはなにかを考える。

到達目標

19世紀における「コミック」とはなにかを理解する。19世紀のブルジョワの思考方法を学ぶことによって、同時代のブルジョワがどうして諷刺の対象になったかを理解する。

授業内容

実施回	内容
第1回	ウジェーヌ・ラビッシュ紹介(1)
第2回	ウジェーヌ・ラビッシュ紹介(2)
第3回	Voyage de Monsieur Perrichon の読解と解説(1)
第4回	Voyage de Monsieur Perrichon の読解と解説(2)
第5回	Voyage de Monsieur Perrichon の読解と解説(3)
第6回	Voyage de Monsieur Perrichon の読解と解説(4)
第7回	Voyage de Monsieur Perrichon の読解と解説(5)
第8回	Voyage de Monsieur Perrichon の読解と解説(6)
第9回	Voyage de Monsieur Perrichon の読解と解説(7)
第10回	Voyage de Monsieur Perrichon の読解と解説(8)
第11回	Voyage de Monsieur Perrichon の読解と解説(9)
第12回	Voyage de Monsieur Perrichon の読解と解説(10)
第13回	Voyage de Monsieur Perrichon の読解と解説(11)
第14回	前期のまとめ
第15回	理解度確認
第16回	Voyage de Monsieur Perrichon の読解と解説(12)
第17回	Voyage de Monsieur Perrichon の読解と解説(13)
第18回	Voyage de Monsieur Perrichon の読解と解説(14)
第19回	Voyage de Monsieur Perrichon の読解と解説(15)
第20回	Voyage de Monsieur Perrichon の読解と解説(16)
第21回	Voyage de Monsieur Perrichon の読解と解説(17)
第22回	Voyage de Monsieur Perrichon の読解と解説(18)
第23回	Voyage de Monsieur Perrichon の読解と解説(19)
第24回	Voyage de Monsieur Perrichon の読解と解説(20)
第25回	Voyage de Monsieur Perrichon の読解と解説(21)
第26回	Voyage de Monsieur Perrichon の読解と解説(22)
第27回	Voyage de Monsieur Perrichon の読解と解説(23)
第28回	Voyage de Monsieur Perrichon の読解と解説(24)
第29回	まとめ
第30回	理解度確認

授業方法

事前に担当箇所を学生に指定し、その部分の訳を発表してもらい、それをもとにコメントをつけ、解説をする。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業当日に使用するテキストの該当箇所を下調べしておくこと(1時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	45 %	
学年末試験(第2学期)	45 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	和訳の発表
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

試験、レポートなどは採点、コメントをつけて返却する。

教科書

Le Voyage de Monsieur Perrichon: Oeuvres & themes, Eugène Labiche, Hatier, 2003, 2-218-74345-0

参考文献コメント

授業時に指示

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360106104	科目ナンバリング	036A902
講義名	卒業演習D		
英文科目名	Graduation Seminar		
担当者名	大野 麻奈子		
単位	0	配当年次	学部 4年
時間割	通年 水曜日 2時限 西2-405		

授業概要

『レミゼラブル』の作者として知られるヴィクトル・ユゴーだが、その作品の中にはオペラ作品の原作となっているものも数多くある。今年度はその中から特に『リゴレット』の原案となったLe roi s'amuseをとりあげ、読み解いていく。『リゴレット』の音楽的な内容についての講義ではなく、あくまでもユゴー作品読解を目指す授業。作品のより深い理解のために、作品朗唱にも重点をおく。

到達目標

ヴィクトル・ユゴー作品についての理解、フランス19世紀演劇についての理解を深める。作品を黙読による理解だけでなく朗読することによって、より理解を深めることを目指す。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業についての説明、オリエンテーション。
第2回	ヴィクトル・ユゴー解説その1。
第3回	ヴィクトル・ユゴー解説その2。
第4回	作品講読その1。
第5回	『リゴレット』(抜粋)DVD鑑賞。
第6回	作品講読その2。
第7回	作品講読その3。
第8回	作品講読その4。
第9回	作品講読その5。
第10回	作品講読その6。
第11回	作品講読その7。
第12回	『リゴレット』(抜粋)DVD鑑賞。
第13回	作品朗唱テスト。
第14回	作品講読その8。
第15回	まとめ。
第16回	作品講読その9。
第17回	作品講読その10。
第18回	作品講読その11。
第19回	作品講読その12。
第20回	作品講読その13。
第21回	作品講読その14。
第22回	作品講読その15。
第23回	作品講読その16。
第24回	作品講読その17。
第25回	作品講読その18。
第26回	作品講読その19。
第27回	作品講読その20。
第28回	作品朗唱テスト。
第29回	作品講読。
第30回	総まとめ。

授業計画コメント

朗唱テストの方法、日程については受講者の様子を見たくうえで随時変更の可能性あり。

授業方法

テキストは、必ず音読してから訳してもらおう。訳のあとに、教員が解説をする。講義ではなく、各自がテキストを訳読する演習形式。

準備学習(予習・復習)

配られたプリントはあらかじめ読んでおく。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	45 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト	10 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	5 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

今までに培ったフランス語能力を駆使して真摯に原作のテキストに向き合い、理解すること。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

前期テストは返却。朗唱テストについては全体的な講評のほか、希望があれば個人的な講評も渡す。

教科書コメント

教師作成のプリント。

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360107101	科目ナンバリング	036A407
講義名	入門演習A		
英文科目名	Introduction to Academic Skills		
担当者名	鈴木 雅生		
単位	2	配当年次	学部 1年
時間割	第1学期 木曜日 5時限 北1-405		

授業概要

大学で学ぶにあたって必要なアカデミック・スキル(課題に応じた情報や文献の検索、読解及び内容の要約、レポートの作成、発表の仕方等)を、少人数の演習形式で習得する。

到達目標

1. 高校までとは異なる、大学での学び方を身につける。
2. 論理的なテキストを読解し、内容を要約できるようになる。
3. 論文・レポートを作成するうえでの基本的な知識、論理的な文章を書く能力を習得する。
4. 説得的な口頭発表の仕方を身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	図書館の利用、資料・文献の検索
第3回	テキストの読み方① 論の構造を理解する
第4回	テキストの読み方② 要約する
第5回	予備日
第6回	口頭発表グループ分け・テーマの設定
第7回	口頭発表の仕方
第8回	口頭発表の中間報告
第9回	レポートの基本
第10回	グループごとの発表①
第11回	グループごとの発表②
第12回	レポートの書き方① 引用の仕方、参考文献の示し方
第13回	レポートの書き方② 論理的な文章の書き方
第14回	授業のまとめ
第15回	到達度確認

授業計画コメント

授業計画はあくまで予定であり、授業の進捗によって変更する可能性があることは言うまでもない。

授業方法

講義、グループワーク、ディスカッションを組み合わせる。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回課題を出す。授業はその課題をもとに進めるので、必ずやってくる。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	最終レポート
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	課題の提出と授業への積極的な参加を重視する
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出された課題は授業内で解説をおこなう。レポートについては、コメントを付与のうえ返却する。

参考文献

大学生 学びのハンドブック,世界思想社編集部・編,世界思想社編集部,4訂,2019,978-4-7907-1707-2
 新版 論文の教室 レポートから卒論まで,戸田山和久,NHK出版,2012,978-4140911945

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360107102	科目ナンバリング	036A407
講義名	入門演習B		
英文科目名	Introduction to Academic Skills		
担当者名	野村 正人		
単位	2	配当年次	学部 1年
時間割	第1学期 木曜日 5時限 西2-205		

授業概要

大学で学ぶにあたって必要なアカデミック・スキル(課題に応じた情報や文献の検索、読解及び内容の要約、レポートの作成、発表の仕方等)を、少人数の演習形式で習得する。

到達目標

1. 高校までとは異なる、大学での学び方を身につける。
2. 論理的なテキストを読解し、内容を要約できるようになる。
3. 論文・レポートを作成するうえでの基本的な知識、論理的な文章を書く能力を習得する。
4. 説得的な口頭発表の仕方を身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	図書館の利用、資料・文献の検索
第3回	テキストの読み方① 論の構造を理解する
第4回	テキストの読み方② 要約する
第5回	予備日
第6回	口頭発表グループ分け・テーマの設定
第7回	口頭発表の仕方
第8回	口頭発表の中間報告
第9回	レポートの基本
第10回	グループごとの発表①
第11回	グループごとの発表②
第12回	レポートの書き方① 引用の仕方、参考文献の示し方
第13回	レポートの書き方② 論理的な文章の書き方
第14回	授業のまとめ
第15回	到達度確認

授業計画コメント

授業計画はあくまで予定であり、授業の進捗によって変更する可能性があることは言うまでもない。

授業方法

講義、グループワーク、ディスカッションを組み合わせる。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回課題を出す。授業はその課題をもとに進めるので、必ずやってくる。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	課題の提出と授業への積極的な参加を重視する
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出された課題は授業内で解説をおこなう。レポートについては、コメントを付与のうえ返却する。

参考文献

大学生 学びのハンドブック,世界思想社編集部・編,4訂,2019,978-4-7907-1707-2
 新版 論文の教室 レポートから卒論まで,戸田山和久,NHK出版,2012,978-4140911945

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360107103	科目ナンバリング	036A407
講義名	入門演習C		
英文科目名	Introduction to Academic Skills		
担当者名	志々見 剛		
単位	2	配当年次	学部 1年
時間割	第1学期 木曜日 5時限 西2-503		

授業概要

大学で学ぶにあたって必要なアカデミック・スキル(課題に応じた情報や文献の検索、読解及び内容の要約、レポートの作成、発表の仕方等)を、少人数の演習形式で習得する。

到達目標

1. 高校までとは異なる、大学での学び方を身につける。
2. 論理的なテキストを読解し、内容を要約できるようになる。
3. 論文・レポートを作成するうえでの基本的な知識、論理的な文章を書く能力を習得する。
4. 説得的な口頭発表の仕方を身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	図書館の利用、資料・文献の検索
第3回	テキストの読み方① 論の構造を理解する
第4回	テキストの読み方② 要約する
第5回	予備日
第6回	口頭発表グループ分け・テーマの設定
第7回	口頭発表の仕方
第8回	口頭発表の中間報告
第9回	レポートの基本
第10回	グループごとの発表①
第11回	グループごとの発表②
第12回	レポートの書き方① 引用の仕方、参考文献の示し方
第13回	レポートの書き方② 論理的な文章の書き方
第14回	授業のまとめ
第15回	到達度確認

授業計画コメント

授業計画はあくまで予定であり、授業の進捗によって変更する可能性があることは言うまでもない。

授業方法

講義、グループワーク、ディスカッションを組み合わせる。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回課題を出す。授業はその課題をもとに進めるので、必ずやってくる。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	最終レポート
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	課題の提出と授業への積極的な参加を重視する
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出された課題は授業内で解説をおこなう。レポートについては、コメントを付与のうえ返却する。

参考文献

大学生 学びのハンドブック,世界思想社編集部・編,世界思想社編集部,4訂,2019,978-4-7907-1707-2
 新版 論文の教室 レポートから卒論まで,戸田山和久,NHK出版,2012,978-4140911945

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360107104	科目ナンバリング	036A407
講義名	入門演習D		
英文科目名	Introduction to Academic Skills		
担当者名	中山 慎太郎		
単位	2	配当年次	学部 1年
時間割	第1学期 木曜日 5時限 西1-307		

授業概要

大学で学ぶにあたって必要なアカデミック・スキル(課題に応じた情報や文献の検索、読解及び内容の要約、レポートの作成、発表の仕方等)を、少人数の演習形式で習得する。

到達目標

1. 高校までとは異なる、大学での学び方を身につける。
2. 論理的なテキストを読解し、内容を要約できるようになる。
3. 論文・レポートを作成するうえでの基本的な知識、論理的な文章を書く能力を習得する。
4. 説得的な口頭発表の仕方を身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	図書館の利用、資料・文献の検索
第3回	テキストの読み方① 論の構造を理解する
第4回	テキストの読み方② 要約する
第5回	予備日
第6回	口頭発表グループ分け・テーマの設定
第7回	口頭発表の仕方
第8回	口頭発表の中間報告
第9回	レポートの基本
第10回	グループごとの発表①
第11回	グループごとの発表②
第12回	レポートの書き方① 引用の仕方、参考文献の示し方
第13回	レポートの書き方② 論理的な文章の書き方
第14回	授業のまとめ
第15回	到達度確認

授業計画コメント

授業計画はあくまで予定であり、授業の進捗によって変更する可能性があることは言うまでもない。

授業方法

講義、グループワーク、ディスカッションを組み合わせる。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回課題を出す。授業はその課題をもとに進めるので、必ずやってくる。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	最終レポート
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	課題の提出と授業への積極的な参加を重視する
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出された課題は授業内で解説をおこなう。レポートについては、コメントを付与のうえ返却する。

参考文献

大学生 学びのハンドブック,世界思想社編集部・編,世界思想社編集部,4訂,2019,978-4-7907-1707-2
 新版 論文の教室 レポートから卒論まで,戸田山和久,NHK出版,2012, 978-4140911945

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360200101	科目ナンバリング	036A201
講義名	フランス語圏文化入門(言語・翻訳)		
英文科目名	Introduction to French Language Cultures: (Language & Translation)		
担当者名	中尾 和美		
単位	4	配当年次	学部 1年～4年
時間割	通年 火曜日 5時限 北1-201		

授業概要

フランス語は系統的にも文法構造上も日本語とは全く異なった言語である。にもかかわらず、ともに「頭(tête)」という語は、「人間の頭、くぎの頭、冒頭」を指すことができる。他方、フランス語には、複合過去、半過去、大過去、単純過去など、日本語には存在しない多くの過去を示す形態がある。この授業では、フランス語を日本語と比較対照させることで、ことばについて考え、言語学の第一歩となるような視点を養うことを目的とする。具体的には、新聞、小説などから実際に収集した例文を観察し、日本語と対照させることで、フランス語の語彙の使い方、またフランス語の人称、時制、法、態などの文法形式がどのように言語外現実を表現しているかを考察する。さらに、フランス語の歴史や21世紀におけるフランス語圏の現状についても考える。

到達目標

フランス語がなぜイタリア語やスペイン語と似ているのか理解できるようになる。フランス語の文法(複合過去と半過去の違い、部分冠詞とは?)について、より具体的に理解できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入
第2回	フランス語圏の国々の現状(1) ヨーロッパ、カナダ、ルイジアナ
第3回	フランス語圏の国々の現状(2) アフリカ、南太平洋、カリブ海
第4回	様々な地域のフランス語
第5回	フランス語の歴史、変遷(1)ストラスブールの誓約
第6回	フランス語の歴史、変遷(2)中世
第7回	フランス語の歴史、変遷(3)近・現代
第8回	フランスにおける様々な地域語と海外領土
第9回	翻訳とは?
第10回	翻訳と借用語
第11回	固有名詞の翻訳
第12回	言葉遊び
第13回	なぞなぞ、ダジャレ
第14回	笑い話
第15回	予備日
第16回	レトリック
第17回	直喩・隠喩
第18回	換喩
第19回	仏語学的考察(1) 疑問文
第20回	仏語学的考察(2) 命令文
第21回	仏語学的考察(3) 名詞の性
第22回	仏語学的考察(4) 部分冠詞・不定冠詞
第23回	仏語学的考察(5) 定冠詞
第24回	仏語学的考察(6) 複合過去と半過去
第25回	仏語学的考察(7) 大過去、単純過去、近接過去
第26回	仏語学的考察(8) 単純未来と近接未来
第27回	仏語学的考察(9) 受動態・代名動詞
第28回	誤用
第29回	新語法
第30回	授業の総括

授業方法

具体的な例を見ながら、ことばについて共に考える。積極的に授業に参画することが望まれる。毎回授業の最後に授業の復習を兼ねたコメントカードの提出をもとめる。その際、質問・コメントなどあれば、カードに記入してもらい、学生諸君との意思疎通を図るようにする。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

フランス語の初級文法の教科書を復習しておくことが好ましい。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

原則として、第1学期末にレポート提出、学年末に試験を行う予定。また、毎回授業後に行う授業の復習を兼ねたコメントの提出、及び授業への参加、出席などの平常点も成績評価の対象とする。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回のコメントカードに書かれた質問については、次回の授業で答え、フィードバックを行う。

教科書コメント

必要に応じてプリントにて配布

参考文献

- 冠詞の謎を解く,小田涼,白水社,2019
- 中級フランス語 あらわす文法,東郷雄二,白水社,2011
- Le bon usage,M.Grevisse,Duculot,2011
- フランス語とはどういう言語か,大橋保夫,駿河台出版,1993
- 翻訳仏文法(上)(下),鷲見洋一,ちくま学芸文庫,2003

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

フランス語圏文化学科の2年生、またはフランス語既習の1年生のみ履修可能。他学科の学生は履修不可。フランス語未習の学生は履修を認めない。但し、1、2年生以外でも「ゼミナール」を履修する資格のない学生は履修を認める。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360201101	科目ナンバリング	036A202
講義名	フランス語圏文化入門(舞台・映像)		
副題	フランス語圏の映画史		
英文科目名	Introduction to French Language Cultures: (Theater & Films)		
担当者名	大原 宣久		
単位	4	配当年次	学部 1年～4年
時間割	通年 金曜日 1時限 西1-101		

授業概要

フランスを中心とした映画史のおおまかな流れ、映画表現の変遷をたどっていきます。

と同時に、その変遷をよりよく理解するために、フランスにこだわらず、古今の名作を題材に、映画作品にどのような主題が選ばれ、どのような技法が使われ、どのような要素が盛り込まれているか、そしてそれらはいかにして統合され、どのような意味を作品に与えているか等について、考察していきます。

以上に関しては、実際の授業では概論的な説明のみに頼るのではなく、なるべく実際の映画・映像を見ながら実感・体験していけるようにしたいと思います。

到達目標

- 1、映画史(とくにフランス語圏の映画)の変遷をおおまかに理解できるようになる。
- 2、映画の制度的・形式的側面について学び、映画を分析的に見ることができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション——映画誕生(リュミエール兄弟～ジョルジュ・メリエス)
第2回	サイレント映画の時代——グリフィス、ガンズ、エイゼンシュテイン、チャップリン
第3回	ルネ・クレール
第4回	ジャック・フェデー
第5回	ジュリアン・デュヴィヴィエ
第6回	マルセル・カルネ その1
第7回	マルセル・カルネ その2
第8回	ジャン・ルノワール その1
第9回	ジャン・ルノワール その2
第10回	ヌーヴェル・ヴァーグの源流1——アンドレ・バザンの思想と戦後イタリア派
第11回	ヌーヴェル・ヴァーグの源流2——オーソン・ウェルズ
第12回	ヌーヴェル・ヴァーグ その1——フランソワ・トリュフォー(1)
第13回	ヌーヴェル・ヴァーグ その2——フランソワ・トリュフォー(2)
第14回	理解度の確認
第15回	前期の振り返り
第16回	ヌーヴェル・ヴァーグ その3——ジャン＝リュック・ゴダール(1)
第17回	ヌーヴェル・ヴァーグ その4——ジャン＝リュック・ゴダール(2)
第18回	ヌーヴェル・ヴァーグ その5——エリック・ロメール(1)
第19回	ヌーヴェル・ヴァーグ その6——エリック・ロメール(1)
第20回	ヌーヴェル・ヴァーグ その7——ジャック・ドゥミ
第21回	戦後のジャン・ルノワール
第22回	ロベール・ブレソン
第23回	アルベール・ラモリス
第24回	ヌーヴェル・ヴァーグ以降のフランス語圏映画 その1
第25回	ヌーヴェル・ヴァーグ以降のフランス語圏映画 その2
第26回	ヌーヴェル・ヴァーグ以降のフランス語圏映画 その3
第27回	ヌーヴェル・ヴァーグの継承者たち その1
第28回	ヌーヴェル・ヴァーグの継承者たち その2
第29回	理解度の確認
第30回	後期の振り返り

授業計画コメント

以上はあくまで予定ですので、受講者の理解度などを考慮のうえ、順序・内容等、変更する可能性があります。

授業方法

講義形式でおこないます。進め方としては、1. 映像の紹介、2. それを受けての教員の解説、(場合によって3. 文献の紹介)という流れになります。

ただし、毎回の授業で少し時間をもうけて、各受講者にも授業内容を受けてのリアクションペーパーを書いてもらう予定です。講義形式の授業とはいえ、受講者は受け身一方にならず主体的に授業に参加し、映画に関して各自で考えてもらいたいと思います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業内で取り上げた映画作品については、授業後に通して見ておくことが望ましい。紹介した文献についても、授業前後に読んでおくことが望ましい。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点は出席、およびリアクションペーパーの内容で評価します。
なお、授業中の私語・遅刻・途中退席などが目立つ学生は減点することがあるので注意すること。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

リアクションペーパーの内容については、検討に値するものは授業内で随時紹介し、考察・講評をおこなう。

参考文献

フランス映画史の誘惑: 集英社新書, 中条省平, 集英社, 2003, 9784087201796
映画とは何か(上): 岩波文庫, アンドレ・バザン, 岩波書店, 2015, 9784003357811
映画とは何か(下): 岩波文庫, アンドレ・バザン, 岩波書店, 2015, 9784003357828

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

履修できるのは、フランス語圏文化学科の1、2年生のみ。但し、1、2年生以外でも「ゼミナール」を履修する資格のない学生は履修を認める。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360202101	科目ナンバリング	036A203
講義名	フランス語圏文化入門(広域文化)		
英文科目名	Introduction to French Language Cultures: (Integrated Cultural Studies)		
担当者名	澁谷 与文		
単位	4	配当年次	学部 1年～4年
時間割	通年 月曜日 3時限 中央-401		

授業概要

フランス近現代に至る技術・認識・感性の変化についてテーマごとに概観します。

到達目標

フランス近現代の文化と社会を相互に関連づけて理解できる。
現代社会の諸問題について歴史的背景を踏まえて分析できる。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	ワインとビール1
第3回	ワインとビール2
第4回	フランスの言語環境
第5回	中世地中海世界と知の移転
第6回	近代の起源
第7回	宗教改革
第8回	革命と反動
第9回	啓蒙と科学
第10回	革命前夜の間観
第11回	植民地へのまなざし
第12回	啓蒙の世紀の女性と子供
第13回	教育制度と学校
第14回	夏季レポート準備回
第15回	理解度の確認
第16回	オリエンテーション
第17回	ナショナリズム・レジオナリズム・ユーロペイスム
第18回	ブルジョワ社会初期
第19回	オリジナリティー著作権と発明特許
第20回	プロレタリアの現実
第21回	社会主義
第22回	二月革命と普通選挙
第23回	オスマン改造
第24回	ダーウィンと実証主義
第25回	植民地主義とフランコフォニー
第26回	死刑・冤罪・無罪—警察制度とドレフュス事件
第27回	科学万能主義の終焉
第28回	両大戦間期
第29回	冬季レポート準備回
第30回	理解度の確認

授業方法

講義が中心ではありますが、ジェネリックスキルを意識しつつ、学生が書いて・議論して・整理して・振り返る時間を設けます。主体的に学ぶ中で知識の交換と定着を目指しますので、授業への能動的な参加が必要です。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回、課題図書を指定する。指定された図書の指定された箇所を書店・図書館・研究室で手に入れ読解する(30分～1時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	第1学期、第2学期
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	毎回のリアクションペーパー
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

リアクションペーパーには下線などの記号や点数、コメントを付して返却する。
レポートの評価基準は、授業の進捗とともに段階的に解説した後、評価基準表を配布する。

参考文献

フランス文化史I, ジョルジュ・デュビイ、ロベール・マンドルー, 人文書院, 1969, 978-4409510018
 フランス文化史II, ジョルジュ・デュビイ、ロベール・マンドルー, 人文書院, 1969, 978-4409510025
 フランス文化史III, ジョルジュ・デュビイ、ロベール・マンドルー, 人文書院, 1969, 978-4409510032
 1789年—フランス革命序論: 岩波文庫, ジョルジュ・ルフェーヴル, 岩波書店, 1998, 978-4003347614
 「近代」の意味: NHKブックス, 桜井哲夫, 日本放送出版協会, 1984, 978-4140014707

参考文献コメント

参考文献表を配布する

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

フランス語圏文化学科の学生の1・2年生のみ履修可。但し、1・2年生以外でも「ゼミナール」を履修する資格のない学生は、履修を認める。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360203101	科目ナンバリング	036A204
講義名	フランス語圏文化入門(文学・思想)		
副題	フランス文学の歴史		
英文科目名	Introduction to French Language Cultures: (Literature & Theory)		
担当者名	中山 慎太郎		
単位	4	配当年次	学部 1年～4年
時間割	通年 火曜日 4時限 西1-101		

授業概要

中世から現代にいたるフランス語圏の文学の流れをたどりながら、毎回代表的な作品の抜粋を読んでいます。受講者各人が、それぞれの興味に従って読書を広げ、深めていく手がかかりとなることを期待しています。

到達目標

1. フランス語圏文学の豊かさと多様性に触れる。
2. フランス語圏文学のおおまかな全体像を把握する。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス、フランス語の成り立ち
第2回	中世(1): 聖人伝、武勲詩、トゥルバドゥール
第3回	中世(2): 『トリスタンとイゾー』——トマ版とベルール版を比較して
第4回	16世紀(1): ルネサンスとは?、人文主義とラブレー、モンテーニュ
第5回	16世紀(2): 16世紀の詩(ルイズ・ラベ、ロンサールなど)
第6回	17世紀(1): 古典主義とは? ——コルネイユ、ラシーヌ、モリエール(1)
第7回	17世紀(2): 古典主義とは? ——コルネイユ、ラシーヌ、モリエール(2)
第8回	17世紀(3): 「我惟う、ゆえに我あり」(デカルト)、「人間は考える葦である」(パスカル)
第9回	17世紀(4): 『寓話』(ラ・フォンテーヌ)、『ペロー童話集』(ペロー)
第10回	18世紀(1): 啓蒙思想とは? ——モンテスキュー、デイドロ、ヴォルテール、ルソー
第11回	18世紀(2): ファム・ファタルの原型——『マン・レスコー』(アベ・プレヴォー)
第12回	18世紀(3): 書簡体小説の魅力——『危険な関係』(ラクロ)
第13回	18-19世紀: 擬古典主義からロマン主義へ——ロマン主義の先駆者たち、スタール夫人、シャトーブリアン
第14回	19世紀(1): ロマン主義とは? ——ユゴー、ラマルチーヌ、ヴィニー、ミュッセ
第15回	理解度の確認
第16回	19世紀(2): 小説家ユゴーと他のロマン主義の作家たち、スタンダール
第17回	19世紀(3): 「人間喜劇」(バルザック)、19世紀の悪女(ファム・ファタル)——『カルメン』(メリメ)
第18回	19世紀(4): 『悪の華』、『パリの憂愁』(ボードレール)
第19回	19世紀(5): 詩人たちの交感——ヴェルレーヌとランボー
第20回	19世紀(6): 写実主義から自然主義へ——フロベール、ゾラ、モーパッサン
第21回	20世紀前半(1): 「20世紀最大の知性」——ヴァレリー
第22回	20世紀前半(2): 『失われた時を求めて』(プルースト)
第23回	20世紀前半(3): エスプリ・ヌーヴォーとは? ——アポリネールと前衛の芸術家たち、ベル・エポックと女流作家コレット
第24回	20世紀前半(4): 「革命」——ダダとシュルレアリスム
第25回	20世紀前半(5): 自由を求めて——第二次世界大戦とレジスタンス文学
第26回	20世紀後半(1): 実存主義とは? ——サルトル、ボーヴォワール、カミュ
第27回	20世紀後半(2): 不条理演劇
第28回	20世紀後半(3): ヌーヴォー・ロマンとは?、第二次世界大戦後の詩の状況
第29回	20世紀後半(4): デュラス、クレオールとは?
第30回	理解度の確認

授業計画コメント

授業計画はあくまで目安ですので、授業の進度、受講者の興味に応じて内容や順序を変更することがあります。

授業方法

テキストを随時配布のうえ、講義形式で進めます。作品からの抜粋・引用等は日本語訳を用います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

教科書の該当箇所と配布したテキストを事前に読んでおくこと(30分)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	20 %	
学年末試験(第2学期)	20 %	
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	コメントペーパー
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

コメントペーパーに書かれた疑問や意見に関して、各回の授業の冒頭で回答、コメントします。

参考文献

フランス文学史,田村毅・塩川徹也編,東京大学出版会,1995

新版 フランス文学史,饗庭孝男ほか編,白水社,1992

はじめて学ぶフランス文学史,横山安由美・朝比奈美知子編著,ミネルヴァ書房,2002

増補 フランス文学案内:岩波文庫,渡辺一夫・鈴木力衛編,岩波書店,1990

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

フランス語圏文化学科の学生の1・2年生に限ります。但し、1,2年生以外でも「ゼミナール」を履修する資格のない学生は、履修を認めます。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360204101	科目ナンバリング	036A301
講義名	フランス語圏文化講義(言語・翻訳)		
英文科目名	Lecture on French Language Cultures: (Language & Translation)		
担当者名	寺家村 博		
単位	4	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 木曜日 1時限 中央-508		

授業概要

このクラスでは1年を通してフランス語圏という概念がもつ意味、そしてフランス語圏の国や地域の中で何かを表現するというのがどのような意味を持ちうるのかを探っていきます。具体的には組織としてのフランス語圏の成立過程を学び、西ヨーロッパ、北米、アフリカなどに点在するフランス語圏の国や地域の文化的特徴をテキストを訳読しながら理解していきます。更にフランス語圏の文学作品にもできるだけ多く触れていきます。第2学期には訳読に関連したグループワークなども取り入れていく予定です。そして最終的に受講生がフランス語圏を通してフランスをあらたに捉え直すという新しい視座を獲得することを目指します。

到達目標

フランスを内からではなく、外から理解する視点を持つことができる。 フランス語圏の国々の社会、文化、言語政策などに関する知識を得ることができる。 さまざまなタイプのフランス語の文章を翻訳する機会となる。また外国語としてのフランス語の「読む」能力の向上を同時に目指す。

授業内容

実施回	内容
第1回	第1学期オリエンテーション
第2回	詳細な講義概要、講義の進め方の説明
第3回	プリント1 フランス語圏の成立1
第4回	プリント2 フランス語圏の成立2
第5回	プリント3 世界のフランス語圏を概観する1
第6回	プリント4 世界のフランス語圏を概観する2
第7回	プリント5 西ヨーロッパのフランス語圏1
第8回	プリント6 西ヨーロッパのフランス語圏2
第9回	プリント7 西ヨーロッパのフランス語圏3
第10回	プリント8 アフリカのフランス語圏
第11回	プリント9 北米のフランス語圏
第12回	プリント10 フランス語圏におけるフランス語の使用状況1
第13回	プリント11 フランス語圏におけるフランス語の使用状況2
第14回	理解度の確認
第15回	振り返り
第16回	第2学期オリエンテーション
第17回	グループワーク(西ヨーロッパのフランス語圏に関する発表)1
第18回	グループワーク(西ヨーロッパのフランス語圏に関する発表)2
第19回	グループワーク(西ヨーロッパのフランス語圏に関する発表)3
第20回	グループワーク(カリブ海のフランス語圏に関する発表)
第21回	グループワーク(アフリカのフランス語圏に関する発表)
第22回	グループワーク(カナダのフランス語圏に関する発表)
第23回	プリント12 カナダのフランス語圏の文学作品を読む1
第24回	プリント13 カナダのフランス語圏の文学作品を読む2
第25回	プリント14 カナダのフランス語圏の文学作品を読む3
第26回	プリント15 カナダのフランス語圏の文学作品を読む4
第27回	プリント16 ヨーロッパやアフリカのフランス語圏の文学作品を読む1
第28回	プリント17 ヨーロッパやアフリカのフランス語圏の文学作品を読む2
第29回	理解度の確認
第30回	振り返り

授業方法

演習形式で進めていきます。受講生への積極的な参加を期待します。 また仏和辞書は必ず毎時間持参すること。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

次の授業のために配布したプリントは予め日本語に訳しておくこと(約1時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	35 %	
学年末試験(第2学期)	35 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

テスト終了後、テスト内容の要点を解説し、理解度を深める。

教科書コメント

プリントは授業時に配布する

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360205101	科目ナンバリング	036A302
講義名	フランス語圏文化講義(舞台・映像)A		
副題	フランス映画概説		
英文科目名	Lecture on French Language Cultures: (Theater & Film)		
担当者名	中条 省平		
単位	4	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 月曜日 1時限 西2-501		

授業概要

リュミエール兄弟による映画の発明から現代まで、フランス映画の歴史をたどる。受講者はフランス語ができるという利点があるので、フランス語の文献を活用して授業内容の深化を図る。

到達目標

単にフランス映画の歴史的概観を体得するのみならず、映画とは何か、表象芸術とは何かという根源的な問題についても思考しうる哲学的、歴史的基礎を身につけてもらいたい。

授業内容

実施回	内容
第1回	リュミエール兄弟
第2回	ジョルジュ・メリエス
第3回	パテとゴーモン
第4回	フィルム・ダール
第5回	マックス・ランデル
第6回	エミール・コール
第7回	アリス・ギイ
第8回	ルイ・フィヤード
第9回	アベル・ガンズ
第10回	アヴァンギャルド映画
第11回	詩的レアリスム
第12回	ルネ・クレール
第13回	ジャック・プレヴェール
第14回	理解度の確認
第15回	自主研究(予備日)
第16回	ジャン・ヴィゴ
第17回	ジャン・ルノワール
第18回	マルセル・カルネ
第19回	ジャック・ベッケル
第20回	ジャン=ピエール・メルヴィル
第21回	ロベール・ブレッソン
第22回	ジャック・タチ
第23回	ジャン・コクトー
第24回	アレクサンドル・アストリュック
第25回	クロード・シャブロール
第26回	フランソワ・トリュフォー
第27回	ジャン=リュック・ゴダール
第28回	エリック・ロメール
第29回	理解度の確認
第30回	自主研究(予備日)

授業計画コメント

以上の予定はあくまでも予定であって、それぞれの説明が予想外に膨らむこともあるであろう。機械的に映画の歴史を図式化することより、映画の醍醐味をできるかぎり生々しく伝えるような授業でありたい。

授業方法

講義形式。フランス語のプリントを配って随時解説する。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業中に言及された映画作家、スタッフ、映画作品、映画専門用語などについて、各種辞書や百科事典、映画事典などを丹念に引きながら確認し、理解を深めること。また、授業中に配布され解説されたフランス語文献を復習して、自分でもきちんと意味が分かるようにしておくこと(約1時間半)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	70 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

教室で直接説明する。

教科書コメント

とくにない。

参考文献コメント

教室で直接指示する。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。
フランス語圏文化講義(舞台・映像)Bの重複履修不可。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360205102	科目ナンバリング	036A302
講義名	フランス語圏文化講義(舞台・映像)B		
副題	芸術ダンスの系譜		
英文科目名	Lecture on French Language Cultures: (Theater & Film)		
担当者名	岡見 さえ		
単位	4	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 水曜日 4時限 西1-305		

授業概要

現代の社会にはダンスがあふれているが、美術や音楽等の他の芸術領域に比べ、ダンスの歴史や美学はまだ十分に共有されているとは言えない。それゆえダンスは、しばしば理解しづらい芸術、あるいは感覚的な気晴らしと捉えられがちである。この授業では、フランスを中心に、ダンス・クラシック(バレエ)からコンテンポラリーダンスに至る芸術ダンスの歴史を把握し、現代のダンス作品に表れている多様な美学や問題系への理解を深める。前半では、バレエの歴史を概観したのちにテキスト(フランス文学)に基づくバレエ作品を時代順に取り上げ、ダンスと「物語」の関係を考察する。後半では、ダンス・クラシックを批判的に継承した20世紀以降のダンス、特に1980年代以降のダンス(コンテンポラリーダンス)を学ぶ。舞踊は時代に鋭く呼応する現代アートであるゆえ、作品の考察の過程においては、メディア、ジェンダー、ディアスポラ、都市空間等、現代の身体をめぐる諸問題にも接近するだろう。

到達目標

芸術としてのダンスの歴史を理解し、振付作品を言語化する力と、批評に必要な分析力の基礎を身につけることができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	バレエ史概説(1)
第3回	バレエ史概説(2)
第4回	「物語」とバレエ理論(1)
第5回	「物語」とバレエ理論(2)
第6回	『ジゼル』(1841)コラリ、ペロー振付
第7回	『眠れる森の美女』(1890)プティパ振付
第8回	『牧神の午後』(1913)ニジンスキー振付
第9回	『アルルの女』(1974)プティ振付
第10回	『マノン』(1974)マクミラン振付
第11回	『椿姫』(1978)ノイマイヤー振付
第12回	『シンデレラ』マラン版(1985)、ヌレエフ版(1986)、マイヨー版(2007)
第13回	古典の「読み直し」:『牧神の午後』ロビンス版(1953)、『ジゼル』エック版(1987)
第14回	『ヴェロニク・ドワノー』(2004)ベル振付
第15回	まとめ
第16回	バレエ・リュス
第17回	モダンダンス、ポストモダンダンス
第18回	1960-70年代のフランス・ダンスと社会の状況
第19回	1980年代のコンテンポラリーダンス(1)
第20回	1980年代のコンテンポラリーダンス(2)
第21回	1990年代のコンテンポラリーダンス(1)
第22回	1990年代のコンテンポラリーダンス(2)
第23回	2000年代のコンテンポラリーダンス(1)
第24回	2000年代のコンテンポラリーダンス(2)
第25回	2010年代のコンテンポラリーダンス
第26回	フランス語圏(ケベック)のコンテンポラリーダンス
第27回	日本のコンテンポラリーダンスとフランス(1)
第28回	日本のコンテンポラリーダンスとフランス(2)
第29回	まとめ
第30回	振り返り

授業計画コメント

シラバスに記した進度には、受講者の関心等に応じて変更が生じることがある。

授業方法

ダンス動画の鑑賞と講義によって進める。教材は補助プリントを配布する。毎回授業後にリアクションペーパーを課す。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業前に、前期は次回授業で扱う文学作品の筋をまとめておくこと。後期は次回授業で扱う振付家、作品について調べておくこと。授業後はリアクションペーパーを書くこと。(計1時間程度)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

レポートは課題に対して、授業内容を踏まえた客観的な分析と論理的な記述が行われているかを評価する。

平常点は、出席に加えて授業態度を考慮する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

リアクションペーパーは授業内でコメントを行い授業に反映させる。レポートは希望者に返却する。

参考文献コメント

授業で指示する。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

フランス語圏文化講義(舞台・映像)Aの重複履修不可。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360206101	科目ナンバリング	036A303
講義名	フランス語圏文化講義(広域文化)A		
副題	20世紀フランスと前衛芸術		
英文科目名	Lecture on French Language Cultures: (Integrated Cultural Studies)		
担当者名	進藤 久乃		
単位	4	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 木曜日 3時限 西2-205		

授業概要

20世紀は、「前衛(アヴァンギャルド)」と呼ばれる芸術家や芸術運動が数多く生まれた時代である。彼らは革新性を追求しながらも従来の文学・芸術形式にも意識的であり、作品の概念や受容の形態に大きな変化をもたらした。既成の芸術ジャンルを越境し、国際的な広がりを持つことも前衛の特徴である。本講義では、フランス文学分野を中心に、前衛と呼ばれた(あるいはそれに対峙した)運動体や芸術家の具体的な作品・活動、及びその時代背景を紹介しながら、芸術作品・活動がいかにその枠を超えて社会に関わりうるのかを考察する。

到達目標

時代背景や文学史的な文脈を踏まえながら、20世紀フランスの前衛文学・芸術について知識を深める。また、伝統的な芸術ジャンルを越境する作品(カリグラム、作家と画家のコラボレーション作品、映像作品など)について、発表形態なども考慮しながら分析することができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	前衛(アヴァンギャルド)とはなにか
第3回	前衛の先駆者たち
第4回	未来派
第5回	ギョーム・アポリネールと周辺の詩人・芸術家たち(1) 紹介
第6回	ギョーム・アポリネールと周辺の詩人・芸術家たち(2) 作品の読解
第7回	ダダイズム(1) 紹介
第8回	ダダイズム(2) 作品の読解
第9回	シュルレアリスムの美学と詩学(1) 紹介
第10回	シュルレアリスムの美学と詩学(2) 作品の読解
第11回	シュルレアリスム周辺の詩人・芸術家たち(1) 紹介
第12回	シュルレアリスム周辺の詩人・芸術家たち(2) 作品の読解
第13回	非西欧芸術へのまなざし
第14回	理解度の確認
第15回	到達度の確認
第16回	第1学期の復習
第17回	ナチス占領下フランスにおける前衛芸術(1) 紹介
第18回	ナチス占領下フランスにおける前衛芸術(2) 作品の読解
第19回	第2次世界大戦後のフランス文学と前衛
第20回	レトリズム(1) 紹介
第21回	レトリズム(2) 作品の読解
第22回	コブラ(CoBrA)
第23回	第2次世界大戦後におけるシュルレアリスムの展開(1) 紹介
第24回	第2次世界大戦後におけるシュルレアリスムの展開(2) 作品の読解
第25回	反前衛としてのウリポ
第26回	シチュアシオニスト
第27回	フランスの前衛と交流のあった日本の詩人・芸術家
第28回	予備日・ディスカッション
第29回	理解度の確認
第30回	到達度の確認

授業計画コメント

上記の予定は目安であり、履修者の興味や関心に応じて計画を変更することがある。

授業方法

スライドを使用した講義形式で時代背景を説明した後、文学テキスト、美術作品、映像・音声作品を紹介し、ディスカッションを行う。当時の雑誌なども紹介し、作品がどのように発表されたのかという点についても考慮できるようにする。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業中に配布した資料を見直し、興味のある事項については紹介した参考文献を読んでみる(約1時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	コメントペーパー、授業への参加など
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

履修者からのコメントペーパーの内容を授業に反映させる。

教科書コメント

プリントを配布する。

参考文献コメント

参考文献については、授業内で紹介する。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。
フランス語圏文化講義(広域文化)Bの重複履修不可。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360206102	科目ナンバリング	036A303
講義名	フランス語圏文化講義(広域文化)B		
副題	19世紀パリ生活誌—パリの誘惑、地方の魅惑		
英文科目名	Lecture on French Language Cultures: (Integrated Cultural Studies)		
担当者名	辻川 慶子		
単位	4	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 火曜日 5時限 西2-503		

授業概要

「19世紀の首都」(ベンヤミン)、「記号の首都」(ステイール)と評されるパリについて、これまで人々は多くの言説を紡いできました。パレ・ロワイヤル、ノートル＝ダム大聖堂、シャンゼリゼ通りといった場所からカフェ、レストラン、劇場、社交生活まで、パリの姿は様々な文学や絵画で描かれ、人々を惹きつけています。一方で鉄道の誕生、「レジャーの誕生」(コルバン)とともに、都会を離れ、地方の田園、海岸、温泉地に赴く魅惑も高まっています。パリと地方に人々は何を求め、どのようなまなざしを向けたのでしょうか。この授業では、パリそしてフランスの地方の姿を、19世紀の文学やジャーナリズム、芸術作品などを通して迎っていきたいと思います。

到達目標

19世紀フランスの文化に関する理解を深め、都市あるいは地方に関する言説がどのように生まれたのかについて考察する。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入(1):19世紀パリ生活誌
第2回	導入(2):都市の歴史、都市と芸術
第3回	パリ情景前史:メルシエ『タブロー・ド・パリ』
第4回	美食の誕生(1): レストランの誕生
第5回	美食の誕生(2):グリモ・ド・ラ・レニエール『美食年鑑』
第6回	美食の誕生(3):ブルジョワジーとグルマンディーズ
第7回	美食の誕生(4):アントナン・カレームと宮廷料理
第8回	美食の誕生(5):ブリア＝サヴァラン『美味礼賛』
第9回	社交とジャーナリズム(1):セレブの誕生
第10回	社交とジャーナリズム(2):サロンと社交界
第11回	社交とジャーナリズム(3):オペラ座と劇場とグラン・ブールヴァール
第12回	社交とジャーナリズム(4):『パリ便り』
第13回	社交とジャーナリズム(5):日常の詩学
第14回	これまでのまとめと復習
第15回	理解度の確認
第16回	後期導入:パリと地方
第17回	歴史記念碑と文化遺産(1):ユゴーとノートル＝ダム大聖堂
第18回	歴史記念碑と文化遺産(2):フランス記念碑博物館
第19回	歴史記念碑と文化遺産(3):修復と保存
第20回	歴史記念碑と文化遺産(4):文化財保護制度と歴史的記念物委員会
第21回	産業と社会(1):産業博覧会から万国博覧会へ
第22回	産業と社会(2):万国博覧会と近代都市形成
第23回	産業と社会(3):産業と芸術
第24回	これまでのまとめと復習
第25回	鉄道の誕生、レジャーの誕生(1):旅行の歴史
第26回	鉄道の誕生、レジャーの誕生(2):鉄道の歴史とガイドブックの時代
第27回	鉄道の誕生、レジャーの誕生(3):レジャーの誕生
第28回	鉄道の誕生、レジャーの誕生(4):温泉街、海辺、自然再訪
第29回	これまでのまとめと復習
第30回	理解度の確認

授業計画コメント

履修者の関心や理解度に応じて進度を変更することがあります。

授業方法

講義形式で行います。内容理解のために日本語・フランス語の文献読解を行うことがあります。また、毎回履修者にコメントペーパー

の提出を求めます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

19世紀フランスを中心に、関心のある分野の文献調査を進め、自分なりの考察を行ってください(1時間程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

学期末試験(40%)およびレポート(40%)では、授業で扱った内容の理解度を問い、文献調査などで自分なりに考察を深めた部分を評価します。また、毎回授業で提出するコメントペーパー(20%)では、扱ったテーマに関して考察を書いていただきます。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

コメントペーパーで書かれた意見、質問は次回授業時に紹介し、フィードバックを行います。

教科書コメント

プリント教材を配布します。

参考文献コメント

授業時に指示します。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。
フランス語圏文化講義(広域文化)Aの重複履修不可。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360207101	科目ナンバリング	036A304
講義名	フランス語圏文化講義(文学・思想)		
副題	ベケットと20世紀文学・思想		
英文科目名	Lecture on French Language Cultures: (Literature & Theory)		
担当者名	清水 さやか		
単位	4	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 木曜日 2時限 西1-301		

授業概要

サミュエル・ベケット(1906-1989)の作品を足がかりに、20世紀文学・思想の流れを概観する。まずベケットの主要な作品(小説、戯曲、映像作品など)を読み、そのなかに見られるいくつかの問題系(主体、言語、身体、近代性、人間性/動物性、政治性など)を分析する。そしてそれらを考えるのに適した他のフランス語文学作品や思想書、あるいはベケットについての評論を併せて読み、比較検討することで、20世紀の人文科学においてどのような視点や関心が生まれ、どのような試みや探求がなされてきたのかを考察する。

到達目標

(1) ベケットを20世紀フランス語文学・思想の流れの中に位置づけたうえで、各作品の意義や面白さを理解できるようになる。(2) 文学作品を分析的に読解し、その内容を自分の言葉で論理的に説明する力を養う。(3) 人文科学で問題にされてきたことを自らの生、もしくは現代の問題に引きつけて考えることができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション: サミュエル・ベケットという作家について
第2回	小説『マロウン死す』と小説の革新
第3回	ベケットとヌーヴォー・ロマン(新しい小説)
第4回	『マロウン死す』から『名づけられないもの』への変遷
第5回	『名づけられないもの』における「私」の探求(1)
第6回	『名づけられないもの』における「私」の探求(2): 他の文学作品や思想書とともに
第7回	『モロイ』『マロウン死す』における身体表象
第8回	20世紀文学におけるグロテスクな身体(1)
第9回	20世紀文学におけるグロテスクな身体(2)
第10回	ベケットと心身二元論
第11回	モダニズムとフランス文学: 「近代」とは何か(1)
第12回	モダニズムとフランス文学: 「近代」とは何か(2)
第13回	バタイユのベケット評を読む
第14回	人間性と動物性をめぐる考察
第15回	最終試験
第16回	試験の返却・総評と2学期のイントロダクション
第17回	言語選択の問題: 母国語以外で書いた作家たち(1)
第18回	言語選択の問題: 母国語以外で書いた作家たち(2)
第19回	戯曲『ゴドーを待ちながら』を読む(1)
第20回	戯曲『ゴドーを待ちながら』を読む(2)
第21回	ベケット作品における政治性を考える
第22回	ベケットとジェンダーの問題(1)
第23回	ベケットとジェンダーの問題(2): 他の文学作品や思想書とともに
第24回	『私じゃない』鑑賞と分析
第25回	『フィルム』鑑賞と分析: まなざしについて
第26回	その他ベケットの映像・舞台作品の鑑賞と分析
第27回	ベケットに関する批評を読む(1)
第28回	ベケットに関する批評を読む(2)
第29回	まとめ
第30回	最終試験

授業計画コメント

授業の展開や受講者の興味・理解度に応じて、実施回ごとに予定されているテーマや扱う作品が変更になる可能性がある。

授業方法

講義形式。ただし、一回の授業につき数名程度の受講者にコメントを求める。(発言者は教員がランダムに指名する。時間配分の関

係で受講者のコメントのための時間をとらない回もある。)

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

その都度配布するプリントをよく読んでおくこと。また、できれば授業で扱う作品の邦訳書を事前に読んでおくこと。回によっては宿題を出すこともある。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	35 %	条件の下、自由に論述。各自必要な参考資料を準備し持ち込むこと。
学年末試験(第2学期)	35 %	条件の下、自由に論述。各自必要な参考資料を準備し持ち込むこと。
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	宿題やリアクションペーパーを課す場合がある。
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

1学期と2学期の期末試験は、あらかじめ内容や条件を告知する。受講者はそれに従い、事前に参考資料や論述内容などを準備しておく必要がある。授業で扱った作品の意義を理解したうえで自分が興味を持てる点を見つけ、その関心に沿って、自分なりに、かつ適切な方法で分析的・説得的に作品を論じることができるかが評価のポイントとなる。詳しくは時期が近づいたら指示する。/平常点は、発言・参加態度にみられる積極性や熱意、そして出席状況が評価のポイントとなる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

試験答案はコメントを付けて返却する。

教科書コメント

授業で扱う作品は、基本的には抜粋をプリントにして配布する。

参考文献コメント

参考文献については、テーマごとに教室で適宜指示する。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。また、受講者にコメントを求めるときは出欠確認も兼ねているので、指名されたら必ず反応すること。(何らかの理由でクラス全体を前にしての発言が難しい場合は、事前に事情を説明すること。)

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360208101	科目ナンバリング	036A401
講義名	フランス語圏文化演習(言語・翻訳)A		
副題	Pratique orale du français		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Language & Translation)		
担当者名	CARTON, Martine		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 金曜日 2時限 中央-504		

授業概要

Ce cours s'adresse aux étudiants qui veulent acquérir et mettre en pratique les expressions et tournures qui permettent d'agir et de réagir dans les situations de communication de la vie quotidienne.

Déroulement du cours : 1) exercice d'écoute avec questions sur un document audio (conversation, interview, émission de télévision ou de radio) ; 2) exemples d'expressions pour chaque acte de communication (言語行為), avec des explications lexicales et socioculturelles ; 3) exercices variés de réemploi ; 4) production orale des étudiants du même acte de communication.

到達目標

Pratiquer le français à l'oral, comprendre des actes de communication, acquérir du vocabulaire pour communiquer.

授業内容

実施回	内容
第1回	Acte de communication 1 : Exprimer un besoin, une envie, un désir : 1. Soirée de rêve, 2. Interview micro-trottoir Exercices d'écoute
第2回	Acte de communication 1 : exemples d'expressions
第3回	Acte de communication 1 : exercices variés de réemploi
第4回	Acte de communication 1 : exercices variés de réemploi
第5回	Production orale des étudiants de l'acte de parole 1
第6回	Production orale des étudiants de l'acte de parole 1
第7回	Acte de communication 2 : Exprimer des regrets, des difficultés, des craintes : 1. Le grand départ, 2. Vos regrets, émission-radio Exercices d'écoute
第8回	Acte de communication 2 : exemples d'expressions
第9回	Acte de communication 2 : exercices variés de réemploi
第10回	Production orale des étudiants de l'acte de parole 2
第11回	Acte de communication 3 : Les loisirs et les vacances : 1. Les Journées patrimoines, 2. Projet de vacances Exercices d'écoute
第12回	Acte de communication 3 : exemples d'expressions
第13回	Acte de communication 3 : exercices variés de réemploi
第14回	Production orale des étudiants de l'acte de parole 3
第15回	Production orale des étudiants de l'acte de parole 3
第16回	Acte de communication 4 : Exprimer son opinion : 1. L'égalité des sexes, 2. Soirée d'élections Exercices d'écoute
第17回	Acte de communication 4 : exemples d'expressions
第18回	Acte de communication 4 : exercices variés de réemploi
第19回	Production orale des étudiants de l'acte de parole 4
第20回	Production orale des étudiants de l'acte de parole 4
第21回	Acte de communication 5: Contester, nier, insister : 1. L'engagement étudiant, 2. Réunion solidarité Exercices d'écoute
第22回	Acte de communication 5 : exemples d'expression
第23回	Acte de communication 5 : exercices variés de réemploi
第24回	Production orale des étudiants de l'acte de parole 5
第25回	Production orale des étudiants de l'acte de parole 5
第26回	Acte de communication 6 : faire une critique sur un oeuvre : 1. Le concert d'Éric Séva, 2. La Canopée des Halles Exercices d'écoute
第27回	Acte de communication 6 : exemples d'expression
第28回	Acte de communication 6 : exercices variés de réemploi
第29回	Production orale des étudiants de l'acte de parole 6
第30回	Production orale des étudiants de l'acte de parole 6

授業方法

Travail individuel et en groupe

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

30 mn de préparation avant les cours

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)	40 %	Production orale

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Les exercices seront corrigés et rendus.

履修上の注意

履修者数制限あり(30名)。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360208102	科目ナンバリング	036A401
講義名	フランス語圏文化演習(言語・翻訳)B		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Language & Translation)		
担当者名	横川 晶子		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 火曜日 5時限 北1-306		

授業概要

フランス語を日本語に翻訳するための知識と能力を習得するために、第1学期の授業では平易で短い文章を多く訳し、翻訳に関する基礎的な事柄を学習する。第2学期の授業では、フランスで実際に読まれている文章の日本語訳に取り組み、翻訳の実践を試みる。最新のフランス事情を反映するテキストを通じて、フランスのアクチュアリティに触れることも心がける。また翻訳研究に関して知っておくべき研究倫理についても学ぶ。

到達目標

フランス語と日本語の言語としての本質的な相違点を理解し、翻訳が内包する問題の分析を通じて、翻訳に必要な知識と技術を身につけることができる。また、単なる仏文和訳と翻訳はどう違うのか、良い訳文とはどのようなものか、文章の性格や目的によって訳がどう変わるのかなどを認識することで、実践的な翻訳の能力を高めることができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業内容及び授業の進め方についての説明
第2回	人称代名詞
第3回	固有名詞
第4回	前置詞(句)
第5回	接続詞(句)
第6回	関係代名詞
第7回	時制
第8回	会話体の文章
第9回	説明の文章
第10回	日記
第11回	手紙もしくはメールの文章
第12回	平易な小説(1) 文体
第13回	平易な小説(2) 描写
第14回	理解度の確認とまとめ
第15回	到達度確認
第16回	第1学期レポートについて確認及び解説
第17回	料理のレシピ(1) 語彙
第18回	料理のレシピ(2) 文体
第19回	雑誌等の文章(1) ジャンル
第20回	雑誌等の文章(2) 文体
第21回	新聞記事(1) 日本とフランスの新聞記事の相違点
第22回	新聞記事(2) 実践
第23回	字幕作成(1) 字幕制作の方法
第24回	字幕作成(2) 実践
第25回	現代小説(1) 文体
第26回	現代小説(2) 人称及び時制
第27回	現代小説(3) 描写及び叙述
第28回	リーディング・レジュメの作成の仕方
第29回	理解度の確認とまとめ
第30回	到達度確認

授業方法

上記の授業内容に沿ったフランス語のテキストを毎回の授業で配布し、訳の担当者を決めます。担当者は次の授業までに、訳文を作成して事前にメールで提出します。次の授業では、講師がテキストについて説明をおこない、提出された訳文を検討すると同時に、訳の担当者や授業参加者のコメントを求めます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

課題の訳を担当する学生は締切日までに訳文を作成してメールで提出してください。担当でない学生も事前に訳文の作成を試みてください。(1時間～2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

試験は実施せず、平常点(授業内の課題による訳文)及びレポート(学期末に実施)により総合的に評価します。テキストの内容を正確に把握し、不明点を調査し、適格な日本語の文章で訳文を作成しているかどうかを評価のポイントとします。また、指定された期限内に訳文を提出することも重視します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

平常の課題については毎回の授業で解説を行いコメントを述べます。第1学期のレポートについては、第2学期の初回授業で解説し、適宜コメントを述べます。

教科書コメント

毎回の授業でプリントを配布します。

参考文献コメント

必要に応じて教室で指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。(30名)

第1回目の授業に必ず出席のこと。

履修希望者が30名を超えた場合、初回の授業において以下の優先順位で受講できる学生を決めます。

1)「卒業翻訳」を選択した4年生。

2)「言語・翻訳」コース所属の4年生

3)「言語・翻訳」コース所属で、「卒業研究(卒業論文・卒業翻訳)」を予定している3年次の学生。

4)その他の3、4年生。

*履修希望者が30名を超えた場合、4)の中で抽選を行います。

その他

課題の訳文をメールにより提出してもらうので、メールの送受信が可能な環境を整えておいて下さい。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U3602081Z1	科目ナンバリング	036A401
講義名	○◇フランス語圏文化演習(言語・翻訳)		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Language & Translation)		
担当者名	DELEMAZURE, Raoul		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 火曜日 2時限 仏文院生室.第1学期 火曜日 5時限 仏文院生室		

授業概要

écriture académique en français et méthodologie de la recherche

到達目標

Ce cours a pour objectif de progresser dans les exercices d'écriture académique en français, l'explication de texte, la dissertation, le résumé, ainsi que de voir différents points de théorie de la littérature.

授業内容

実施回	内容
-----	----

- | | |
|------|---|
| 第1回 | Méthode de l'explication de texte. |
| 第2回 | Rimbaud, Sensation. |
| 第3回 | Rimbaud, Sensation (suite) |
| 第4回 | Baudelaire, Parfum exotique. |
| 第5回 | Baudelaire, Parfum exotique (suite) |
| 第6回 | Laclos, Les Liaisons dangereuses. |
| 第7回 | Laclos, Les Liaisons dangereuses (suite) |
| 第8回 | Duras, L'Amant |
| 第9回 | Duras, L'Amant (suite) |
| 第10回 | Raymond Queneau, Exercices de style |
| 第11回 | Raymond Queneau, Exercices de style (suite) |
| 第12回 | Camus, Le Premier homme. |
| 第13回 | Camus, Le Premier homme. |
| 第14回 | Jean-Jacques Rousseau, Les Confessions |
| 第15回 | Jean-Jacques Rousseau, Les Confessions (suite) |
| 第16回 | Méthode de la dissertation. |
| 第17回 | Première dissertation (faire un plan) |
| 第18回 | Première dissertation (faire un plan) |
| 第19回 | Deuxième sujet de dissertation (faire une introduction) |
| 第20回 | Deuxième sujet de dissertation (faire une introduction) |
| 第21回 | Troisième dissertation (rédiger un paragraphe) |
| 第22回 | Troisième dissertation (rédiger un paragraphe) |
| 第23回 | Quatrième dissertation (faire une transition) |
| 第24回 | Quatrième dissertation (faire une transition) |
| 第25回 | Cinquième introduction (améliorer la présentation des exemples) |
| 第26回 | Cinquième introduction (améliorer la présentation des exemples) |
| 第27回 | Sixième dissertation (rédiger une conclusion) |
| 第28回 | Sixième dissertation (rédiger une conclusion) |
| 第29回 | préparation de la dissertation finale. |
| 第30回 | Correction de la dissertation finale. |

授業方法

Nous travaillons ensemble pour améliorer les productions écrites.

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Chaque semaine il faut préparer le cours (lire le texte, chercher des exemples pour la dissertation) et participer activement en classe.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	100%	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

A la fin du premier semestre, il faut rédiger un commentaire de texte.
A la fin du second semestre, il faut rédiger (en partie) une dissertation.

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Les cours 15 et 30 seront la correction en classe des rapports de fin de semestre.

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

Les textes seront distribués en classe.

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U3602081Z2	科目ナンバリング	036A401
講義名	◇フランス語圏文化演習(言語・翻訳)		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Language & Translation)		
担当者名	中尾 和美		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 火曜日 4時限 北1-201		

授業概要

フランス語で書かれた言語学関連の論文を読むことで、論文フランス語に慣れると同時に、言語学の第一歩となるような視点を養う。今年度は、主として語用論的な視点から日常を取り巻く言語の考察を深めたい。

到達目標

論文フランス語を通してフランス語の知識を増やすこと、書き言葉のフランス語に慣れること、フランス語らしいフランス語が書けるようになること、ことば一般に対する興味を深めることを目指す。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	日常を取り巻く言語について(1)
第3回	日常を取り巻く言語について(2)
第4回	日常を取り巻く言語について(3)
第5回	日常を取り巻く言語に関する論文講読(1)
第6回	日常を取り巻く言語に関する論文講読(2)
第7回	日常を取り巻く言語に関する論文講読(3)
第8回	日常を取り巻く言語に関する論文講読(4)
第9回	日常を取り巻く言語に関する論文講読(5)
第10回	日常を取り巻く言語に関する論文講読(6)
第11回	発表(1)
第12回	発表(2)
第13回	発表(3)
第14回	授業の総括
第15回	予備日
第16回	日常を取り巻く言語について日本語とフランス語の比較(1)
第17回	日常を取り巻く言語について日本語とフランス語の比較(2)
第18回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(1)
第19回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(2)
第20回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(3)
第21回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(4)
第22回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(5)
第23回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(6)
第24回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(7)
第25回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(8)
第26回	発表(1)
第27回	発表(2)
第28回	発表(3)
第29回	授業の総括
第30回	予備日

授業方法

一方的な講義ではなく、参加者との議論を交えて授業を進めていく。またフランス語で書かれた論文を精読することで、考察を深めると同時に、論文フランス語のスタイルに慣れ、かつフランス語での読解力を養うことを目標とする。定期的に参加者の発表を予定しているため、積極的に議論に参画し、かつ言語調査をする意欲を持っていることが望まれる。参加者の興味によっては、柔軟に授業の内容を変更することもあるので、各自興味と意欲を持って授業に臨んでほしい。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

論文の担当箇所を調べるだけでなく、論文全体を読んで内容を理解するようにしておくこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):(テキストの予習、授業における参画、発表。)単なる出席ではなく、授業への参加態度も成績評価の対象とする。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートについては、コメント、返却する。

教科書コメント

授業で講読する論文は、授業中に指示する。

参考文献

- Quand dire, c'est faire, J.L. Austin, Éditions du Seuil, 1970
- Les actes de langage dans le discours, C. Kerbrat-Orecchioni, Armand Colin, 2008
- Politeness, Brown & Levinson, Cambridge, 1987
- Langage et discours, P. Charaudeau, Hachette université, 1983
- Les phrases sans texte, D. Maingueneau, Armand Colin, 2012

参考文献コメント

必要に応じて授業中に指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360209101	科目ナンバリング	036A402
講義名	フランス語圏文化演習(舞台・映像)A		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Theater & Film)		
担当者名	彦江 智弘		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 金曜日 3時限 西1-213		

授業概要

本演習では、ロラン・バルトの写真論を起点に様々な写真理論を学ぶとともに、実際の写真作品をどのように分析し読み解くかを実践的に検討する。前期は主にアンリ・カルティエ＝ブレッソンなどのスナップ写真を取り上げ、後期にはリネケ・ダイクストラらのポートレート写真を取り上げる予定。

到達目標

①映像理論を身につける。②映像を分析的に見ることができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション①写真
第2回	スナップ写真とは何か①
第3回	スナップ写真とは何か②
第4回	バルトの写真論①
第5回	バルトの写真論②
第6回	作品分析
第7回	作品分析
第8回	作品分析
第9回	関連写真論①
第10回	作品分析
第11回	作品分析
第12回	関連写真論②
第13回	作品分析
第14回	作品分析
第15回	前期の振り返り
第16回	イントロダクション②映画
第17回	ポートレート写真とは何か①
第18回	ポートレート写真とは何か②
第19回	バルトの写真論③
第20回	バルトの映画論④
第21回	作品分析
第22回	作品分析
第23回	作品分析
第24回	関連映画論①
第25回	作品分析
第26回	作品分析
第27回	関連映画論②
第28回	作品分析
第29回	作品分析
第30回	後期の振り返り

授業方法

演習形式。レクチャー、議論、発表を交えて授業を進める。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業で取り上げるテキストや作品を事前に自分で検討する。授業後には、授業での議論をふまえ自分なりの作品分析を深める。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	70 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

演習形式の授業であるため、授業への積極的な参加度を重視する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

演習形式の授業のため、授業内での参加者との議論の中でフィードバックは行う。

参考文献

明るい部屋, ロラン・バルト, みすず書房, 978-4622049050

ロラン・バルト映画論集, ロラン・バルト, 筑摩書房, 978-4480084644

まなざしのエクササイズ, ロズウェル・アンジェ, フィルムアート社, 978-4845912063

写真の物語——イメージ・メイキングの400年史, 打林 俊, 森話社, 9784864051392

イメージを逆撫でする: 写真論講義 理論編, 前川 修, 東京大学出版会, 9784130101417

参考文献コメント

その他の参考文献は授業で適宜指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり(30名)。

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360209102	科目ナンバリング	036A402
講義名	フランス語圏文化演習(舞台・映像)B		
副題	文学とオペラ:『カルメル修道女の対話』を読む/観る		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Theater & Film)		
担当者名	上杉 未央		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 月曜日 4時限 西2-404		

授業概要

プーランクによるオペラ『カルメル修道女の対話』(1957年初演)は、欧米においては現在でも比較的頻繁に上演される作品である。フランス革命期の宗教的迫害を描く作品がなぜ第二次世界大戦中に構想され、舞台化されたのか、当時の時代背景を鑑みながら作者たちの意図をよみといていきたい。本授業では、オペラの原作であるベルナノスの『カルメル修道女の対話』を訳読しながら、オリヴィエ・ピイ演出のDVDを観、原作がどのように舞台化され、演出されているか検討する。ベルナノスやプーランクに関する論考を読む時間や、テキストに出てきた文法事項を練習する機会も設けたい。

到達目標

フランス語による戯曲を正確に読むことができる。
 翻案(アダプテーション)や演出における解釈の多様性について理解を深める。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	プーランクについて ベルナノスについて カルメル会について
第3回	第一幕1
第4回	第一幕2
第5回	第一幕3
第6回	第二幕1
第7回	第二幕2
第8回	第二幕3
第9回	第二幕4
第10回	第二幕5
第11回	第二幕6
第12回	第二幕7
第13回	さまざまな演出
第14回	授業のまとめ
第15回	振り返り
第16回	第三幕1
第17回	第三幕2
第18回	第三幕3
第19回	第三幕4
第20回	第三幕5
第21回	第四幕1
第22回	第四幕2
第23回	第四幕3
第24回	第四幕4
第25回	第四幕5
第26回	第四幕6
第27回	第四幕7
第28回	第四幕8
第29回	授業のまとめ
第30回	振り返り

授業方法

演習形式で行う。担当者による訳とコメントをもとに、教室全体で討議し問題点を共有する。人数によってはグループワークを取り入れる。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

単語などを調べ理解が困難な箇所を明らかにする。教員が提示する主題やキーワードについて調べる。(1~2時間程度)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)	30 %	担当した訳とコメントに対する評価

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

担当した訳とコメントに対してその場で教員からフィードバックを行う。

教科書

Dialogue des Carmélites: Points, Geroges Bernanos, Seuil, 1996, 978-2020285421

履修上の注意

全体の三分の一以上を欠席した場合は単位を認めない。

履修者数制限あり(30名)。

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360210101	科目ナンバリング	036A403
講義名	フランス語圏文化演習(広域文化)A		
副題	写真を「読む」		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Integrated Cultural Studies)		
担当者名	内藤 真奈		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 木曜日 2時限 南1-306		

授業概要

エルヴェ・ギベールによる写真批評『幻のイメージ』を読むことを通して、批評文の読解方法を学ぶとともに、写真を言語で表現する試みの実践に触れ、写真と文学、それぞれの表現方法の違いを味わう。

到達目標

1. フランス語の文章を、発音規則にしたがって音読する能力を身につける。
2. 現代フランス語で書かれた文章の読解力を習得する。
3. 読解した内容を自身の体験に引きつけ、解釈および発展的思考ができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス 写真・写真批評の歴史 作品紹介
第2回	L'Image fantôme 講読：《 Les lunettes à lire la pensée 》 / 《 L'image fantôme 》 (1)
第3回	L'Image fantôme 講読：《 L'image fantôme 》 (2)
第4回	L'Image fantôme 講読：《 L'image fantôme 》 (3)
第5回	L'Image fantôme 講読：《 L'image fantôme 》 (4)
第6回	L'Image fantôme 講読：《 L'image fantôme 》 (5)
第7回	L'Image fantôme 講読：《 L'autoportrait 》 (1)
第8回	L'Image fantôme 講読：《 L'autoportrait 》 (2)
第9回	L'Image fantôme 講読：《 L'autoportrait 》 (3)
第10回	L'Image fantôme 講読：《 L'écriture photographique 》 (1)
第11回	L'Image fantôme 講読：《 L'écriture photographique 》 (2)
第12回	L'Image fantôme 講読：《 L'écriture photographique 》 (3)
第13回	L'Image fantôme 講読：《 L'écriture photographique 》 (4)
第14回	第一学期のまとめ
第15回	到達度確認
第16回	L'Image fantôme 講読：《 Photo d'identité II 》 (1)
第17回	L'Image fantôme 講読：《 Photo d'identité II 》 (2)
第18回	L'Image fantôme 講読：《 Polaroid 》 (1)
第19回	L'Image fantôme 講読：《 Polaroid 》 (2)
第20回	L'Image fantôme 講読：《 Les photos préférées 》 (1)
第21回	L'Image fantôme 講読：《 Les photos préférées 》 (2)
第22回	L'Image fantôme 講読：《 La Trahison 》 (1)
第23回	L'Image fantôme 講読：《 La Trahison 》 (2)
第24回	L'Image fantôme 講読：《 La Trahison 》 (3)
第25回	L'Image fantôme 講読：《 La photo, au plus près de la mort 》 (1)
第26回	L'Image fantôme 講読：《 La photo, au plus près de la mort 》 (2)
第27回	L'Image fantôme 講読：《 L'image cancéreuse 》 (1)
第28回	L'Image fantôme 講読：《 L'image cancéreuse 》 (2)
第29回	一年のまとめ
第30回	到達度確認

授業計画コメント

授業の進捗・内容は、受講生の理解度と関心によって変更される可能性がある。

授業方法

第一学期は一人一文ずつ順番に音読・訳読する形式、第二学期は担当者による音読・訳文発表の形式で行う。発表の後、教員が質疑応答による文法事項の確認や解説をする。また、読解した内容、テーマについて、簡単なディスカッションの機会を設ける予定である。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

受講生全員が、授業で予定された箇所の単語を調べ内容を把握し、訳読の準備をする。(1時間～2時間)
予習内容を授業中に確認し、読解が不十分であった場合は、文法事項を含めて復習する。
テキスト内の固有名詞は可能な範囲で調べる。発表担当者は他の学生に説明できるよう準備する。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

担当者として訳読発表を行うことが単位取得の必須条件です。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

訳読発表については、授業中に講評を行う。
学期末レポートはコメントを付して返却する。

教科書

L'Image fantôme, Hervé Guibert, Minuit, 1981, 9782707305855

参考文献

幻のイメージ, エルヴェ・ギベール, 集英社, 1995, 9784087732368

履修上の注意

履修者数に制限(30名)がありますので、初回授業に必ず出席し、履修希望の意思表示をしてください。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360210102	科目ナンバリング	036A403
講義名	フランス語圏文化演習(広域文化)B		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Integrated Cultural Studies)		
担当者名	畑 浩一郎		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 木曜日 4時限 北1-308		

授業概要

フランス国外におけるフランス語の使用のされ方、その汎用性を、18世紀末のポーランド人作家ヤン・ポトツキの著作を通して探る。ポーランドの大貴族の出であるポトツキは、生涯を旅のうちに過ごし、その中で膨大な著作を残しているが、それらは全てフランス語で書かれている。なかでも『サラゴサ手稿』はフランス・ロマン主義文学を先駆ける珠玉の名作である。本授業では、ポトツキの著作、とりわけ小説や旅行記を中心にテキストの精読を行い、必ずしもフランコフォンではない当時の知識人たちがいかにフランス語を自家薬籠中の物としたかを考える。

到達目標

- ・18世紀後半から19世紀前半のポーランドやロシア宮廷におけるフランス語の果たす役割を理解する。
- ・ナポレオン戦争時代の東ヨーロッパの政治情勢を理解する。
- ・幻想文学の諸相について学ぶ。
- ・フランス語文献の読解力を身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	前期のガイダンス
第2回	ポトツキの生きた時代
第3回	フランス語の汎用性
第4回	ポーランド分割とナポレオン戦争
第5回	『サラゴサ手稿』講読と解説 第一デカメロン(1)
第6回	『サラゴサ手稿』講読と解説 第一デカメロン(2)
第7回	『サラゴサ手稿』講読と解説 第一デカメロン(3)
第8回	『サラゴサ手稿』講読と解説 第二デカメロン(1)
第9回	『サラゴサ手稿』講読と解説 第二デカメロン(2)
第10回	『サラゴサ手稿』講読と解説 第二デカメロン(3)
第11回	『サラゴサ手稿』講読と解説 第三デカメロン(1)
第12回	『サラゴサ手稿』講読と解説 第三デカメロン(2)
第13回	『サラゴサ手稿』講読と解説 第三デカメロン(3)
第14回	前期の理解度の確認
第15回	前期の到達度確認
第16回	後期ガイダンス
第17回	『サラゴサ手稿』講読と解説 第四デカメロン(1)
第18回	『サラゴサ手稿』講読と解説 第四デカメロン(2)
第19回	『サラゴサ手稿』講読と解説 第四デカメロン(3)
第20回	『サラゴサ手稿』講読と解説 第五デカメロン(1)
第21回	『サラゴサ手稿』講読と解説 第五デカメロン(2)
第22回	『サラゴサ手稿』講読と解説 第五デカメロン(3)
第23回	『サラゴサ手稿』講読と解説 第六デカメロン(1)
第24回	『サラゴサ手稿』講読と解説 第六デカメロン(2)
第25回	ポトツキの旅行記を読む(1)
第26回	ポトツキの旅行記を読む(2)
第27回	ポトツキの旅行記を読む(3)
第28回	ポトツキの手紙を読む
第29回	後期の理解度の確認
第30回	後期の到達度確認

授業計画コメント

授業計画については、受講者の関心のありかに応じて変更する可能性もある。

授業方法

受講者によるテキスト読解とその発表、質疑応答と教員からのコメント。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

発表者以外も必ず事前に該当箇所を原文で読み、不明な点などを整理しておくこと (1時間から2時間)

授業後には指摘を受けた点を振り返り、必要に応じて、文献、インターネットなどで理解を深めておく (1時間から2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出されたレポートは、コメントを付した上で返却する。

教科書

Manuscrit trouvé à Saragosse (version 1810), Jean Potocki, GF-Flammarion, 2008

履修上の注意

履修者数制限あり(30名)。

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360211101	科目ナンバリング	036A404
講義名	フランス語圏文化演習(文学・思想)A		
副題	スタンダール『赤と黒』を読む		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Literature & Theory)		
担当者名	上杉 誠		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 水曜日 2時限 南1-207		

授業概要

19世紀フランス文学を代表する長編小説のひとつとされる『赤と黒』(1830)を取り上げます。純真さと狡猾さをあわせもつ美青年が立身出世をくわだてる過程を描いたこの小説を精読しながら、野心と恋愛、二人のヒロイン、田舎と首都、政治論争、牢獄、裁判といった主題や、風景描写、独白、視野の限定、語り手の介入といった技法を読み解きます。『赤と黒』やほかの作品に関する批評テキストにも注意を払います。

到達目標

フランス語の散文を正確に読む能力を身につけること。
19世紀小説におけるさまざまな主題や技法について理解を深めること。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	第一部1
第3回	第一部2
第4回	第一部3
第5回	第一部4
第6回	第一部5
第7回	第一部6
第8回	第一部7
第9回	第一部8
第10回	第一部9
第11回	第一部10
第12回	第一部11
第13回	第一部12
第14回	総括
第15回	振り返り
第16回	第二部1
第17回	第二部2
第18回	第二部3
第19回	第二部4
第20回	第二部5
第21回	第二部6
第22回	第二部7
第23回	第二部8
第24回	第二部9
第25回	第二部10
第26回	第二部11
第27回	第二部12
第28回	第二部13
第29回	まとめ
第30回	振り返り

授業計画コメント

以上はあくまで予定です。教室の様子に応じて実際の進め方とは異なる場合があります。

授業方法

演習形式です。初めの数回は講師が担当し、その後は、参加者に訳読と解説をしてもらいます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業前にテキストの該当箇所を読み、単語などを調べ、わからない箇所を把握しておいてください(1~2時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

各学期の最終回に、筆記による確認を行う予定です(平常点に含まれます)。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

訳読中心の授業のため、授業内での訳や発言内容について適宜コメントします。

教科書

Le Rouge et le Noir: GF, Stendhal, Flammarion, 2019, 978-2081489745

参考文献

赤と黒: 光文社古典新訳文庫, スタンダード, 光文社, 2007, 978-4334751371

参考文献コメント

上記の参考文献も含め、授業中に適宜紹介します。

履修上の注意

履修制限の対象です(30名)。受講希望者は、第一回の授業に必ず出席してください。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360211102	科目ナンバリング	036A404
講義名	フランス語圏文化演習(文学・思想)B		
副題	バタイユの思想を読む		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Literature & Theory)		
担当者名	福島 勲		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 木曜日 5時限 西1-214		

授業概要

本授業では、ジョルジュ・バタイユの思想・批評的な文章を手がかりにして、人間や芸術、文学の意味について考察する。具体的には、『ドキュマン』、『内的体験』、『呪われた部分』、『ラスコーの壁画』、『エロティシズム』、『文学と悪』、『至高性』等の抜粋(フランス語原文)の輪読をしながら、その内容について参加者によるディスカッションを行う。

到達目標

- ・フランス語で書かれたテキストを読解し、その内容を理解することができる。
- ・人間や芸術の役割について、文化的、社会的、哲学的な視点から考えることができる。
- ・科学技術や経済効率とは別の観点から人間や文化を構想することができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション: バタイユとは?
第2回	イデアリズム批判: 『ドキュマン』を読む(1)
第3回	イデアリズム批判: 『ドキュマン』を読む(2)
第4回	イデアリズム批判: 『ドキュマン』を読む(3)
第5回	イデアリズム批判: 『ドキュマン』を読む(4)
第6回	無為と共同体: 『内的体験』を読む(1)
第7回	無為と共同体: 『内的体験』を読む(2)
第8回	無為と共同体: 『内的体験』を読む(3)
第9回	無為と共同体: 『内的体験』を読む(4)
第10回	無為と共同体: 『内的体験』を読む(5)
第11回	消尽する人間: 『呪われた部分』を読む(1)
第12回	消尽する人間: 『呪われた部分』を読む(2)
第13回	消尽する人間: 『呪われた部分』を読む(3)
第14回	消尽する人間: 『呪われた部分』を読む(4)
第15回	前半のまとめ&到達度確認
第16回	前半から後半への導入
第17回	芸術と人間: 『ラスコーの壁画』を読む(1)
第18回	芸術と人間: 『ラスコーの壁画』を読む(2)
第19回	芸術と人間: 『ラスコーの壁画』を読む(3)
第20回	芸術と人間: 『ラスコーの壁画』を読む(4)
第21回	性と死: 『エロティシズム』を読む(1)
第22回	性と死: 『エロティシズム』を読む(2)
第23回	性と死: 『エロティシズム』を読む(3)
第24回	性と死: 『エロティシズム』を読む(4)
第25回	文学と至高性: 『文学と悪』を読む(1)
第26回	文学と至高性: 『文学と悪』を読む(2)
第27回	文学と至高性: 『文学と悪』を読む(3)
第28回	文学と至高性: 『至高性』を読む(1)
第29回	文学と至高性: 『至高性』を読む(2)
第30回	一年のまとめ&到達度確認

授業計画コメント

授業内容で提示したテキストはあくまでサンプルである。進度は、参加者の興味・理解度に応じて柔軟に変化する。

授業方法

授業は演習方式であり、参加者による輪読・翻訳・発表によって進む。グループワークも必要に応じて導入する。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

各回の予習には90分～120分かかると想定される。また、発表担当回にはさらに60分程度が必要となる。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

レポートは学生の理解度に応じて各学期1～3回課す。平常点においては、積極的参加および発表内容を評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

各レポートにはコメントをつける。

教科書コメント

適宜、配布する。

参考文献コメント

適宜、指示する。

履修上の注意

フランス語テキストの読解が授業の柱となるので、フランス語未履修者は受講できない。
履修者数制限あり(30名)。第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360211103	科目ナンバリング	036A404
講義名	フランス語圏文化演習(文学・思想)C		
副題	ジャン=ジャック・ルソーの『告白』を読む		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Literature & Theory)		
担当者名	土橋 友梨子		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 金曜日 2時限 西2-306		

授業概要

フランス18世紀の作家であるジャン=ジャック・ルソーの自伝『告白』(Les Confessions)の中からいくつかのエピソードを読んでいきます。

『告白』の読解を通して、ルソーの思想だけでなく、当時の文化的背景や同時代の作家についても学んでいきます。

到達目標

- ・フランス語を正しく発音したり、文章を正確に読む力を身につけます。
- ・ルソーの作品をはじめ、18世紀フランス文学についての理解を深めます。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション:ジャン=ジャック・ルソーについて
第2回	『告白』:序文①
第3回	『告白』:序文②
第4回	『告白』:ヌーシャテル草稿序文①
第5回	『告白』:ヌーシャテル草稿序文②
第6回	『告白』:子ども時代①
第7回	『告白』:子ども時代②
第8回	『告白』:子ども時代③
第9回	『告白』:子ども時代④
第10回	『告白』:青年時代①
第11回	『告白』:青年時代②
第12回	『告白』:青年時代③
第13回	『告白』:青年時代④
第14回	理解度の確認
第15回	到達度の確認
第16回	『告白』:パリにて①
第17回	『告白』:パリにて②
第18回	『告白』:パリにて③
第19回	学生の発表
第20回	『告白』:作家デビュー①
第21回	『告白』:作家デビュー②
第22回	『告白』:作家デビュー③
第23回	学生の発表
第24回	『告白』:作家ルソー①
第25回	『告白』:作家ルソー②
第26回	『告白』:作家ルソー③
第27回	『告白』:作家ルソー④
第28回	『告白』:作家ルソー⑤
第29回	学生の発表
第30回	到達度の確認

授業計画コメント

授業の進度や内容は、学生の興味や理解度に応じて変更する場合があります。

授業方法

授業は演習形式で、学生による輪読と訳の発表によって進みます。
上記に加え、後期は夏休みのレポートをもとに発表をしてもらいます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業前にテキストの該当箇所を読み、わからない単語などを調べておいてください。担当者は訳文を作っておいてください(約1時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	30 %	
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)	20 %	後期の発表

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

訳文の発表については毎回授業中にコメント・解説をします。
レポートにはコメントを付けて返却します

教科書コメント

プリントを配布します。

参考文献コメント

参考文献については授業中に指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり(30名)。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U3602111Z1	科目ナンバリング	036A404
講義名	◇フランス語圏文化演習(文学・思想)		
副題	ル・クレジオ研究		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Literature & Theory)		
担当者名	鈴木 雅生		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 木曜日 3時限 仏文院生室		

授業概要

現代フランス文学を代表するル・クレジオの『砂漠』(1980年)を読む。20世紀初頭に起きた砂漠の民ベルベル人の白人に対する叛乱と、その血を引く現代に生きる少女の遍歴を交差させながら紡がれていくこの物語は、神話的深みと、詩的なみずみずしさにあふれ、ル・クレジオの作品のなかでも特に評価が高い作品である。これを題材として、ル・クレジオという作家の世界観や文学の特徴を考えていきたい。

到達目標

フランス語の高度なテキストを読み、文化的歴史的背景とともに理解するとともに、自らの言葉で解釈・分析できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	作家および作品についての解説
第3回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(1)
第4回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(2)
第5回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(3)
第6回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(4)
第7回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(5)
第8回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(6)
第9回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(7)
第10回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(8)
第11回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(9)
第12回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(10)
第13回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(11)
第14回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(12)
第15回	まとめ
第16回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(13)
第17回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(14)
第18回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(15)
第19回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(16)
第20回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(17)
第21回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(18)
第22回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(19)
第23回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(20)
第24回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(21)
第25回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(22)
第26回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(23)
第27回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(24)
第28回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(25)
第29回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(26)
第30回	総括

授業計画コメント

詳しい授業計画は初回授業時に配布する。

授業方法

演習形式の授業であるので、大筋を説明した後は、各自にテキストを分担してもらいながら授業を進める。単なる訳読ではなく、担当した箇所や分析やコメントを求めるため、必要に応じてテキスト外の資料も参照することとなるだろう。最終的には各々の関心のある観

点からレポートをまとめてもらう。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

自分の担当範囲はもちろん、各回で進むテキストの部分を下調べすること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

上記の割合はあくまで目安である。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出されたレポートについては、コメントを付与のうえ返却する。

教科書

Désert : folio, Le Clézio, Gallimard, 9782070376704

履修上の注意

履修者数制限あり。

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U3602111Z2	科目ナンバリング	036A404
講義名	◇フランス語圏文化演習(文学・思想)		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Literature & Theory)		
担当者名	田上 竜也		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 水曜日 3時限 仏文院生室		

授業概要

フランス世紀末文学を代表する作家のひとりロートレアモンの『マルドロールの歌』を読みます。

到達目標

作品の正確な読解につとめるとともに、さまざまな解釈の広がり把握します。

授業内容

実施回	内容
第1回	概要説明
第2回	テキスト読解
第3回	〃
第4回	〃
第5回	〃
第6回	〃
第7回	〃
第8回	〃
第9回	〃
第10回	〃
第11回	〃
第12回	〃
第13回	〃
第14回	〃
第15回	まとめ
第16回	いままでの内容確認
第17回	テキスト読解
第18回	〃
第19回	〃
第20回	〃
第21回	〃
第22回	〃
第23回	〃
第24回	〃
第25回	〃
第26回	〃
第27回	〃
第28回	〃
第29回	〃
第30回	まとめ

授業方法

各人が章毎に分担し、訳読と解釈を行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

各自毎回数ページを読んでくること。とくに指名された箇所は、各版の注など読み込み、どのような解釈が可能か説明できるようにする。

成績評価の方法・基準

評価項目

評価配分(%) 備考

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	70 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等)70%(出席、聴講態度重視) 聴講態度重視。居眠り、私語、飲食(ガム、飴も含む)、無断退出(必要な場合には必ず申告すること)、メールなどは大きな減点対象となります。レポート30%。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業内の発表内容をまとめたもの(配布資料含む)をレポートとする。

教科書

OEUVRE COMPLETE:COLLECTION POESIE,LAUTREAMONT,GALLIMARD,1973,978207032004

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U3602111Z3	科目ナンバリング	036A404
講義名	◇フランス語圏文化演習(文学・思想)		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Literature & Theory)		
担当者名	鈴木 啓二		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 金曜日 3時限 仏文院生室		

授業概要

ボードレール『パリの憂鬱』を読む

ボードレールの散文詩集『パリの憂鬱』の諸詩篇を、それらをめぐる最近の論文と合わせて読みながら、この詩集が内包する複数の射程(美学的、宗教的、政治的射程)について考察する。

扱う予定の論文は以下の通り(講読する論文及び、講読の順序について、変更する可能性がある)。

1. Steve Murphy, 《Eclats de voies et osmazômes pour Le Spleen de Paris》, in Lectures du Spleen de Paris, Presses Universitaires de Rennes, 2014, p.9-20.
 2. Aurélie Foglia, 《‘L’impersonnalité volontaire’ dans les Petits poèmes en prose》 in Lire Le Spleen de Paris de Baudelaire, PUPS Maison de la Recherche Université Paris-Sorbonne, 2014, p. 47-60.
 3. Edward K. Kaplan, 《Une lecture éthique du Spleen de Paris comme clef des Fleurs du mal, in Lire Le Spleen de Paris de Baudelaire, PUPS Maison de la Recherche Université Paris-Sorbonne, 2014, p. 69-78.
 4. Jean-Michel Gouvard, 《Sur les notions d’égalité, de fraternité et de citoyenneté dans Le Spleen de Paris》, in Lectures du Spleen de Paris, Presses Universitaires de Rennes, 2014, p.297-306.
 5. Alain Vaillant, 《Le Spleen du critique》 in Lectures du Spleen de Paris, Presses Universitaires de Rennes, 2014, p.41-50.
 6. Steve Murphy, 《Assommons les pauvres ! Le démon du combat》, Logiques du dernier Baudelaire, Champion, 2007, ch. XIII, p.393-432.
- 授業では、随時、学生による研究発表も行う。

到達目標

ボードレールの散文詩が切り開いた地平がどのようなものであったかを、各自の関心に即して把握できるようになること

授業内容

実施回	内容
第1回	1 学期全体についての説明
第2回	『パリの憂鬱』の現代的意味(1)
第3回	『パリの憂鬱』の現代的意味(2)
第4回	『パリの憂鬱』の現代的意味(3)
第5回	学生による研究発表 第一回
第6回	『パリの憂鬱』における話者の非人称性(1)
第7回	『パリの憂鬱』における話者の非人称性(2)
第8回	『パリの憂鬱』における話者の非人称性(3)
第9回	学生による研究発表 第二回
第10回	『パリの憂鬱』の政治的射程(1)
第11回	『パリの憂鬱』の政治的射程(2)
第12回	『パリの憂鬱』の政治的射程(3)
第13回	『パリの憂鬱』の政治的射程(4)
第14回	授業のまとめ、授業の総括
第15回	振り返り、到達度確認、等
第16回	2 学期全体についての説明
第17回	散文詩「貧乏人を撲り倒そう!」政治的読解 (1)
第18回	散文詩「貧乏人を撲り倒そう!」政治的読解 (2)
第19回	散文詩「貧乏人を撲り倒そう!」政治的読解 (3)
第20回	散文詩「貧乏人を撲り倒そう!」政治的読解 (4)
第21回	学生による研究発表 第三回
第22回	『パリの憂鬱』の倫理的・宗教的射程 (1)
第23回	『パリの憂鬱』の倫理的・宗教的射程 (2)
第24回	『パリの憂鬱』の倫理的・宗教的射程 (3)
第25回	学生による研究発表 第四回
第26回	『パリの憂鬱』の美学的射程 (1)
第27回	『パリの憂鬱』の美学的射程 (2)
第28回	『パリの憂鬱』の美学的射程 (3)
第29回	授業のまとめ、授業の総括

授業方法

講義、テキスト講読、学生による研究発表

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

講読するテキスト、授業で配布する日本語によるレジュメなどは事前に読んでおくこと。フランス語テキストの事前準備に際しては、仏和辞典だけでなく、仏仏辞典(Grand Robert, Grand Larousse, TLFなど)にもあたること。なお、第一回授業において、辞書についての説明を行う。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中に、発表に対するコメントの形で行う

教科書コメント

Baudelaire, Le Spleen de Parisの原書については、授業開始時まで各自、web、書店等で購入しておくこと。基本的にどの版でも構わないが、可能であれば、注が豊富な次の版が望ましい。Baudelaire, Le Spleen de Paris Petits poèmes en prose, collection "Le livre de poche", Édition présentée et annotée par Jean-Luc Steinmetz. それ以外の教材については、各学期第一回目にコピーを配布する。

履修上の注意

履修者数制限あり。
第一回目の授業に出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U3602111Z4	科目ナンバリング	036A404
講義名	◇フランス語圏文化演習(文学・思想)		
副題	クレビヨン・フィス『心と精神の惑い』をよむ		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Literature & Theory)		
担当者名	志々見 剛		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 金曜日 4時限 仏文院生室		

授業概要

クレビヨン・フィス『心と精神の惑い』(1736, 1738)を取り上げ、18世紀フランスのリベルタン小説の、ひいてはフランスの恋愛心理小説の流れを踏まえながら読解する。

到達目標

作品の背景や、言葉の綾を理解しながら、『心と精神の惑い』のテキストを理解し、分析できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	作品の冒頭部について
第3回	訳読と分析
第4回	同上
第5回	同上
第6回	同上
第7回	同上
第8回	同上
第9回	同上
第10回	同上
第11回	同上
第12回	同上
第13回	同上
第14回	まとめ
第15回	自主研究
第16回	訳読と分析
第17回	同上
第18回	同上
第19回	同上
第20回	同上
第21回	同上
第22回	同上
第23回	同上
第24回	同上
第25回	同上
第26回	同上
第27回	同上
第28回	同上
第29回	まとめ
第30回	自主研究

授業方法

担当者を決めて、抜粋箇所の訳読と分析を行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

あらかじめテキストを読み、分からない単語などを調べておく。
発表担当者はレジユメを準備する。

成績評価の方法・基準

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

上記の割合はあくまで目安である。受講者の数などによって変更することがある。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートは、コメントを付して返却する。

教科書

Les Egarements du cœur et de l'esprit, Crébillon fils, Gallimard, 9782070368914

履修上の注意

履修者数制限あり。
第一回目の授業に出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360300101	科目ナンバリング	036B405
講義名	論文指導演習A		
英文科目名	Practice in thesis writing		
担当者名	横川 晶子		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 火曜日 4時限 北1-306		

授業概要

4年次に制作する卒業論文の準備段階として、論理的な文章の書き方や論文の形式、作成方法を実践的に学ぶ。また論文作成等をする上で知っておくべき研究倫理を学ぶ。

到達目標

論文作成に必要な知識と技術を習得し、卒業論文などを執筆できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業の内容及び授業の進め方についての説明
第2回	日本語の表記に関する基本的な注意事項を学ぶ
第3回	論理的な文章の書き方に関する基本的な事柄を学ぶ
第4回	論理的な文章を要約する
第5回	論文のテーマを選ぶ
第6回	参考文献を探す
第7回	参考文献目録の書き方を学ぶ
第8回	テキスト批評の方法を学ぶ
第9回	論文の構成を考える
第10回	引用及び注について学ぶ
第11回	序論及び結論の書き方を学ぶ
第12回	フランス語の文章の書き方に関する基本的な事柄を学ぶ
第13回	フランス語の要旨の書き方を学ぶ
第14回	総括
第15回	自主研究

授業方法

各回の授業の内容に即して具体的な例をあげながら説明をおこない、内容に沿ったレポート課題を複数回出す。提出されたレポートをもとに、補足説明や個人的なアドバイスをおこなう。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

配布する資料やプリントは次の授業までに読んで内容を理解しておくこと。授業期間中に複数回レポート課題を出すので、締切日までに提出すること。(2～3時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	80 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

試験は実施せず、複数回のレポート課題及び授業中の応答から総合的に判断して評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出されたレポートはコメントを付与して返却し、授業内で説明を行う、もしくは個人的にアドバイスを与える。

教科書コメント

授業中に随時プリントを配布する。

参考文献コメント

必要に応じて授業中に指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席のこと。
履修できるのは、主に卒業論文、卒業翻訳、卒業演習を履修する資格がある4年生の学生。「論文指導演習B」との重複履修は不可。

その他

メールにWord文書を添付する形でレポートを提出してもらうので、各自PC環境を整えておくこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360300102	科目ナンバリング	036B405
講義名	論文指導演習B		
英文科目名	Practice in thesis writing		
担当者名	横川 晶子		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 火曜日 4時限 北1-306		

授業概要

4年次に制作する卒業論文の準備段階として、論理的な文章の書き方や論文の形式、作成方法を実践的に学ぶ。また論文作成等をする上で知っておくべき研究倫理を学ぶ。

到達目標

論文作成に必要な知識と技術を習得し、卒業論文などを執筆できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業の内容及び授業の進め方についての説明
第2回	日本語の表記に関する基本的な注意事項を学ぶ
第3回	論理的な文章の書き方に関する基本的な事柄を学ぶ
第4回	論理的な文章を要約する
第5回	論文のテーマを選ぶ
第6回	参考文献を探す
第7回	参考文献目録の書き方を学ぶ
第8回	テキスト批評の方法を学ぶ
第9回	論文の構成を考える
第10回	引用及び注について学ぶ
第11回	序論及び結論の書き方を学ぶ
第12回	フランス語の文章の書き方に関する基本的な事柄を学ぶ
第13回	フランス語の要旨の書き方を学ぶ
第14回	総括
第15回	自主研究

授業方法

各回の授業の内容に即して具体的な例をあげながら説明をおこない、内容に沿ったレポート課題を複数回出す。提出されたレポートをもとに、補足説明や個人的なアドバイスをおこなう。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

配布する資料やプリントは次の授業までに読んで内容を理解しておくこと。授業期間中に複数回レポート課題を出すので、締切日までに提出すること。(2～3時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	80 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

試験は実施せず、複数回のレポート課題及び授業中の応答から総合的に判断して評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出されたレポートはコメントを付与して返却し、授業内で説明を行う、もしくは個人的にアドバイスを与える。

教科書コメント

授業中に随時プリントを配布する。

参考文献コメント

必要に応じて授業中に指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席のこと。
履修できるのは、主に3年生の学生。「論文指導演習A」との重複履修は不可。

その他

メールにWord文書を添付する形でレポートを提出してもらうので、各自PC環境を整えておくこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360302101	科目ナンバリング	036B406
講義名	文献調査演習		
副題	卒業論文を提出しない学生にも開かれた授業		
英文科目名	Research and Documentation		
担当者名	CARTON, Martine		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 金曜日 1時限 中央-504		

授業概要

卒業論文を提出する学生だけでなく、卒業論文として提出せずに3-4年生の研究を論文としてまとめたいと思う学生も歓迎します。先生と一緒に研究のテーマの設定、論文が発表の構成法、そのために必要な情報を収集する方法、特にフランス語の文献を探す方法を学びます。最後に、論文または発表のレジュメをつくります。

到達目標

研究のテーマを決めること、インターネットで情報(本や記事やビデオやウェブサイトなど)を収集すること、論文の構想をまとめること、レジュメをつくること、最後にクラスでパワーポイントで発表すること

授業内容

実施回	内容
第1回	授業の説明と参加する学生による自分のテーマの紹介
第2回	Choix du sujet de recherches : フランスまたはフランス語に関連する研究対象を絞るためのブレインストーミングを行います。何の研究をしたいのか、何に興味があるのかを手掛かりにします。
第3回	Choix du sujet de recherches
第4回	Choix du sujet de recherches
第5回	Recherches de documents
第6回	Recherches de documents
第7回	Choisir un livre et en faire une fiche de lecture
第8回	Rédaction d'une fiche de lecture
第9回	Rédaction d'une fiche de lecture
第10回	Rédaction d'une fiche de lecture
第11回	Présentation du livre à la classe
第12回	Présentation du livre à la classe
第13回	Présentation du livre à la classe
第14回	まとめ
第15回	自主研究
第16回	Choix du sujet de la présentation orale
第17回	Choix du sujet de la présentation orale
第18回	Rédaction de la présentation orale : texte en français et en japonais, et power point
第19回	Rédaction de la présentation orale : texte en français et en japonais, et power point
第20回	Rédaction de la présentation orale : texte en français et en japonais, et power point
第21回	Rédaction de la présentation orale : texte en français et en japonais, et power point
第22回	Rédaction de la présentation orale : texte en français et en japonais, et power point
第23回	Présentation orale et discussion sous forme de questions posées par l'enseignant et les étudiants du cours
第24回	Présentation orale et discussion sous forme de questions posées par l'enseignant et les étudiants du cours
第25回	Présentation orale et discussion sous forme de questions posées par l'enseignant et les étudiants du cours
第26回	Présentation orale et discussion sous forme de questions posées par l'enseignant et les étudiants du cours
第27回	Rédiger un résumé en français
第28回	Rédiger un résumé en français
第29回	Rédiger un résumé en français
第30回	自主研究

授業方法

Chaque étudiant travaillera sur son propre sujet et fera une présentation de son travail à la classe

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Préparation de 20-30 minutes avant chaque cours.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	80 %	
小テスト	20 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等) : 20% :Fiche de lecture, présentation orale, résumé : 80%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Les exercices seront corrigés et rendus aux étudiants, les présentations orales seront corrigées et notées à l'oral.

履修上の注意

履修者数制限あり(20名)。
第1回目の授業に出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360303101	科目ナンバリング	036B104
講義名	フランス語実習A		
英文科目名	Practice in the French language		
担当者名	大野 麻奈子		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 木曜日 3時限 西2-406		

授業概要

TCF (Test de Connaissance du Français =フランス語能力試験) 受験対策問題演習などを通して、フランス語能力を高めていくための授業。特に、聴解力を伸ばすことを目指します。年2回(通常6月、12月)当大学で実施するTCFのうち、最低限1回は受験することを前提としています。

到達目標

TCFのレベルB1くらいの力をつけることを目指します。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業についておよびTCFについての説明。
第2回	演習問題その1
第3回	演習問題その1解説および演習問題その2
第4回	演習問題その2解説および演習問題その3
第5回	演習問題その3解説および演習問題その4
第6回	演習問題その4解説および演習問題その5
第7回	演習問題その5解説および演習問題その6
第8回	演習問題その6解説および演習問題その7
第9回	演習問題その7解説および演習問題その8
第10回	演習問題その8解説および演習問題その9
第11回	演習問題その9解説および演習問題その10
第12回	演習問題その10解説および演習問題11
第13回	演習問題その11解説および演習問題その12
第14回	演習問題その12解説および演習問題13
第15回	まとめ
第16回	演習問題14
第17回	演習問題14解説および演習問題15
第18回	演習問題15解説および演習問題16
第19回	演習問題16解説および演習問題17
第20回	演習問題17解説および演習問題18
第21回	演習問題18解説および演習問題19
第22回	演習問題19解説および演習問題20
第23回	演習問題20解説および演習問題21
第24回	演習問題21解説および演習問題22
第25回	演習問題22解説および演習問題23
第26回	演習問題23解説および演習問題24
第27回	演習問題24解説および演習問題25
第28回	演習問題25解説および演習問題26
第29回	演習問題26解説および演習問題27
第30回	総まとめ

授業計画コメント

受講者の積極的な参加を望みます。

授業方法

可能な限り多くの(できれば全員)受講者に毎回、解答してもらえようにしたい。授業内容については、受講者の様子、TCFでの成績などを鑑みて随時変更・修正を加えていく予定。

準備学習(予習・復習)

配られたプリントは予習復習に使用すること。また、毎日出来る限り多くの時間フランス語に触れること(聴くこと、読むこと)がフランス語能力を高めるためには必須なので、理想的には自宅でも毎日、聴解力を高めるための教材(指示します)を聞いて欲しい。

成績評価の方法・基準

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	TCF
学年末試験(第2学期)	45 %	TCFおよび学期末試験
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	15 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

TCFの成績が発表され次第、それぞれの傾向(より強化すべき点など)をコメントして渡す。小テストなどを実施する場合は、試験を採点し返却する。

教科書コメント

教師作成のプリントを配布。

履修上の注意

履修者数制限あり。
第一回目の授業に出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360303102	科目ナンバリング	036B104
講義名	フランス語実習B		
英文科目名	Practice in the French language		
担当者名	一丸 禎子		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 木曜日 3時限 中央-502		

授業概要

この授業はフランス語を「聞いて」理解することに特化されています。
一にも、二にも「聞く」ことを中心に展開し、聞いた音を書きとる練習をします。

到達目標

- ① フランス語を聞いて、内容を理解する。
- ② フランス語を聞いて、簡単な文章は正確に書き取れる。
- ③ 年2回(通常6月、12月)当大学で実施するTCFのうち、最低限1回の受験を前提とする。

授業内容

実施回	内容
第1回	実力テストに挑戦してみよう！(聞き取りと書き取り)
第2回	Bonjour! Il y a un problème? Au revoir!(聞き取り)
第3回	Bonjour! Il y a un problème? Au revoir!(別冊練習問題の書き取り)
第4回	Tu es français?(聞き取り)
第5回	Tu es français?(別冊練習問題の書き取り)
第6回	Vous vous appelez comment?(聞き取り)
第7回	Vous vous appelez comment?(別冊練習問題の書き取り)
第8回	Elle n'a pas de problème.(聞き取り)
第9回	Elle n'a pas de problème.(別冊練習問題の書き取り)
第10回	Il est sportif. Elle est sportive.(聞き取り)
第11回	Il est sportif. Elle est sportive.(別冊練習問題の書き取り)
第12回	Où Hugo va-t-il en vacances?(聞き取り)
第13回	Où Hugo va-t-il en vacances?(別冊練習問題の書き取り)
第14回	応用問題 フランス語でニュースを聞いてみよう
第15回	実力測定
第16回	Ma mère est française et mon père est japonais.(聞き取り)
第17回	Ma mère est française et mon père est japonais.(別冊練習問題の書き取り)
第18回	Qu'est-ce-que tu as?(聞き取り)
第19回	Qu'est-ce-que tu as?(別冊練習問題の書き取り)
第20回	Où avez-vous mal?(聞き取り)
第21回	Où avez-vous mal?(別冊練習問題の書き取り)
第22回	Qu'est-ce que Maxime a fait hier soir?(聞き取り)
第23回	Qu'est-ce que Maxime a fait hier soir?(別冊練習問題の書き取り)
第24回	Avant, il y avait...(聞き取り)
第25回	Avant, il y avait...(別冊練習問題の書き取り)
第26回	Et toi, du couscous, tu en as déjà mangé?(聞き取り)
第27回	Et toi, du couscous, tu en as déjà mangé?(別冊練習問題の書き取り)
第28回	応用問題 雑音のある録音を聴く
第29回	応用問題 読み上げられるテキストの聞き取り・書き取り
第30回	実力測定

授業計画コメント

授業で扱う文法事項は1～2年生で習う基礎的な文法です。これはすでにきちんと身につけている必要があります。教科書を見て不明のところは自分で調べ、おさらいをしてあると言う前提で授業を進めます。それでも解決のつかなかった問題は教室で質問し、みんなで考えましょう。こちらから説明を求めることもあります。

授業方法

一部をグループワークとし、全体は演習形式で進めます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業の前に教科書を読み、音源を聞き、ディクテに対応できるように自分で書取りの練習をしておくこと(教室でぶっつけ本番にならないように)。授業の後には、聞き取れなかった、あるいは書き取れなかった語彙を抜き出し、正確に暗記すること。以上の他にネット配信されているFrance2などのニュースを聞く習慣をつけておきましょう。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	45 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	15 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

練習問題などの課題は毎回きちんとやってあることが前提なので、学年末試験の結果を重視します(言い換えると、課題をきちんとやって積み重ねてこないと、学年末試験では良い成績は取れません)。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

教室で返却します。

教科書

エカート！ 聞いておぼえるフランス語,井上櫻子他,朝日出版社,初,2020,978-4-255-35304-3

参考文献

フランス語コミュニケーションライブ,一丸禎子、レボラルル・パトリック,三修社,初,2011,978-4-384-05666-2

履修上の注意

履修者数制限あり。
第一回目の授業に出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360303103	科目ナンバリング	036B104
講義名	フランス語実習C		
英文科目名	Practice in the French language		
担当者名	川口 覚子		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 木曜日 3時限 西1-108		

授業概要

フランス語の1)聞き取り、2)発音、3)文法復習など総合的にのばしていくために、毎回プリントを配布し、様々な角度から進めていきます。

特に聞き取り、発音に力を入れていきます。合わせてTCF受験のための傾向と対策も行う予定です。

到達目標

特に聞き取り、発音、会話に重点をおき、簡単な会話、長文の内容が理解できる。
年1度のTCF受験を義務とします。(本校では年2回実施しています)

授業内容

実施回	内容
第1回	聞き取り、ディクテ
第2回	発音練習、ディクテ
第3回	文法問題、ディクテ
第4回	聞き取り、ディクテ
第5回	発音練習、ディクテ
第6回	文法問題、ディクテ
第7回	聞き取り、ディクテ
第8回	発音練習、ディクテ
第9回	文法問題、ディクテ
第10回	聞き取り、ディクテ
第11回	発音練習、ディクテ
第12回	文法問題、ディクテ
第13回	聞き取り、ディクテ
第14回	発音練習、ディクテ
第15回	理解度の確認
第16回	聞き取り、ディクテ
第17回	発音練習、ディクテ
第18回	文法問題、ディクテ
第19回	聞き取り、ディクテ
第20回	発音練習、ディクテ
第21回	文法問題、ディクテ
第22回	聞き取り、ディクテ
第23回	発音練習、ディクテ
第24回	文法問題、ディクテ
第25回	聞き取り、ディクテ
第26回	発音練習、ディクテ
第27回	文法問題、ディクテ
第28回	聞き取り、ディクテ
第29回	発音練習、ディクテ
第30回	文法問題、ディクテ、理解度の確認

授業計画コメント

上記の内容は目安であり、学生の理解度によって変わることがあります。さらに単語、文章を暗記しまとめて小テストを細かくやる予定です。その場合はあらかじめ告知し、評価配分に組み込みます。毎回のディクテも評価に入ります。

授業方法

配布プリントを使って、聞きとり練習(簡単な会話を聞き取って、聞こえたままを発音してみる)。さらに、その聞き取ったものを文字にしてみる練習、長文、会話を聞き、それに対する練習問題を実施します。毎回、一回以上は学生に答えていただくことになるでしょう。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

ほぼ毎回1度限りの練習なので、学習した単語や表現を復習してください。課題が出る場合もあります。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	45 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	15 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

評価配分はあくまでも参考程度であり、平常点などを加味し、総合的に評価します。
TCFの受験を義務とします。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

試験は実施後に採点して返却します。

教科書コメント

そのつどプリントを配布します。

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>